

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.  
109  
海建

# カイケン magazine

年報  
号

研究室説明会の日程  
研究室紹介  
修士論文・卒業研究  
就職状況

## 目次

平成31年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	卒業論文・修士論文	16
平成31年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績（空間利用系）	19
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績（資源・エネルギー開発系）	26
研究室紹介（空間利用系）	4	教員研究業績・研究室活動業績（環境保全系）	28
研究室紹介（資源・エネルギー開発系）	12	就職情報	30
研究室紹介（環境保全系）	14		

## ●平成31年度 研究室説明会日程

時間 日・教室	1・2時限			3時限		4時限	
	9:50~10:30	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30
4月3日(水) 1441教室	近藤 [計算工学]	北嶋 [構造工学]	福井 [コンクリート構造工学]	恵藤 [海洋構造デザイン]	居駒・相田 [海洋空間利用工学]		
4月4日(木) 1441教室	星上 [沿岸環境防災]	小林(昭)・野志 [沿岸域工学]	親水工学 [菅原]	桜井・寺口 [ウォーター フロント都市工学]	山本 [沿岸地域計画学]	佐藤 [建築デザイン・計画]	小林(直) [海洋建築・ 建築デザイン]

## 平成31年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
学部1年	桜井 慎一	1357	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
	星上 幸良	1334		
学部2年	居駒 知樹	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1341		
学部3年	小林 直明	1346	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
学部4年	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
大学院	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp

## 平成31年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
学生相談	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
留学生担当	桜井 慎一	1357	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

学科  
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市7-24-1  
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室  
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美  
倉井 朋美

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp  
kurai.tomomi@nihon-u.ac.jp



## 学生受賞

### ●優等賞

川北章悟（北嶋研究室）  
 田中孝登（親水工学研究室）  
 大柁久隆（北嶋研究室）  
 ルネンコヴァ アナスタシア（佐藤研究室）

### ●日本大学部科校長賞（学術・文化部門）

新保拓海：2017年度日本建築学会大会（中国）学術講演会 構造部門（振動）若手優秀発表賞受賞  
 橋本宗侍：日本沿岸域学会平成29年度全国大会（熊本）日本沿岸域学会研究討論会2017 優秀講演賞受賞

### ●加藤賞

横田拓也：飛砂による地形変化を考慮した海浜地形変化予測モデルに関する研究  
 小山大樹：RC造間柱型ダンパーを設置した制振構造物の制振効果に関する研究  
 村田大地：MPS法の弾性体モデルを適用した構造物の津波漂流物衝突時の弾性応答解析に関する基礎的研究

### ●海建優秀賞

服部 立：Singapore Aqueductureーシンガポール市街地における貯水池の建築化ー  
 岡田和俊・陳治・須永大輔・横山実花：鉛直荷重を受けるRC架構の地震時挙動に関する実験的研究

### ●桜建賞

細谷 昂：物流機能維持に向けた港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究  
 新井義友・今津祥地郎：スラブ付RC造十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験  
 関根雅人・馬場淑弘：茨城県濁沼湖における湖浜変形の要因と影響に関する研究

### ●海建賞

勝部秋高：屋木苅の梯子ーゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園ー  
 田中孝登：海上公園における水辺環境を考慮した空間利用および管理運営のあり方に関する調査研究  
 岡田貴裕：円筒形貯槽タンクの有限要素解析  
 藤田優美：ウォーターフロント住宅における居住環境意識の経年変

化に関する研究ー東京・南千住と千葉・幕張の集合住宅を対象とした調査ー

永井勇輝：津波災害時における観光施設等の外国人観光客への避難誘導に関する研究

佐々木凌太郎：東京湾を対象とした生態系ネットワークに関する基礎的研究ー浮遊経路の検証に向けてー

小林和貴・上野橋平：循環型浄化システムを基にした連続稼働システムによる水質浄化効果

### ●桜工賞

西村亜子：オープンキャンパスなどの学科広報活動への多大な貢献  
 海老原碧：卒業アルバム編集委員としての貢献

### ●平成30年度（第62回）理工学部学術講演会優秀発表賞（口頭発表部門）

草川和広：多数回繰返し載荷を受けるRC造スラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究  
 ーその2 実験結果ー

櫻井郁人：短周期地震動による円筒形タンク内の液面動揺解析  
 新保拓海：レンズダンパーを組み込んだRC造間柱の水平加力実験  
 ーその4 解析モデルの概要および解析結果ー

萩原悠太：水海域における固定式海洋構造物の地震応答性状に関する研究

福永勇太：港湾内における津波による係留船舶の漂流被害予測および係留索張力特性に関する基礎的研究

### ●平成30年度（第62回）理工学部学術講演会優秀発表賞（ポスター発表部門）

勝部秋高：Disaster mitigation skyscraper  
 佐々木秀人：高度人材を対象とした発信・交流の場となる複合文化施設の提案ー水環境を活用した研究促進のための国際ラーニングセンターの設計ー

下本瀬夏：DISによる東京都の大規模地震における負傷者数の分布と医療支援浮体の適地に関する研究

宗原咲来：全国の川床の立地分布と成立要因に関する調査研究

宮川 寛：海水浴場における利用者数向上に関する基礎的研究

森 拓実：災害種別避難誘導システム及び災害種別のピクトグラムに関する研究ー和歌山県東牟婁郡串本町の住民を対象としてー

## 学科イベントカレンダー

### 2019年

4月5日(金)	新入生歓迎式	9月上旬	海洋実習Ⅰ（1年生）
5月25日(土)	新入生学科オリエンテーション	11月1日(金)	桜理祭（～11月3日(日)）
7月下旬	「海と建築」ポスター発表（1年生）	12月4日(水)	理工学部学術講演会
8月上旬	海洋実習Ⅱ（2年生）	3月上旬～下旬	海外研修旅行

### 2020年

1月上旬	博士論文公聴会	3月9日(月)	卒業発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(水)	卒業式（学位記伝達式）
2月下旬	修士論文審査会	—	—

## Teaching Staff

教授  
小林 直明

## ●研究室紹介

研究室は、「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際のプロジェクトに反映できるようにしています。さらに研究室でいうデザインは、単なる「かたち」ではなく全て機能があることを基にしています。

海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。現在は、周辺のまちづくり、自然の環境、自然エネルギー等を考慮して設計しますが、今後は建築自体が異分野の機能と結び付けなければならないのではと考えます。たとえば、単なる環境装置の設置を超えて周辺の自然と連携する、市街地多種の交通システムと連携を図る、ビッグデータ・AI・IoT・ロボットのインダストリー 4.0 技術とのさらなる融合等が必要と考えます。海洋建築であるからこそ無限の可能性と異分野との連携のポテンシャルが高いことを認識したいと思います。

新しいものを開発するイノベーションを起こす場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要であると考えます。

また、現在行なわれている 3.11 復興において、建築と土木の両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然と防災、ユニバーサルデザイン、同時に地域産業と共存できる将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。

研究テーマは以下となります。

## ●卒業設計・研究のテーマ

## [建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン]

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) 新交通システムと連携する建築デザイン
- 4) 3.11 復興計画デザイン(津波&放射線)・東南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン

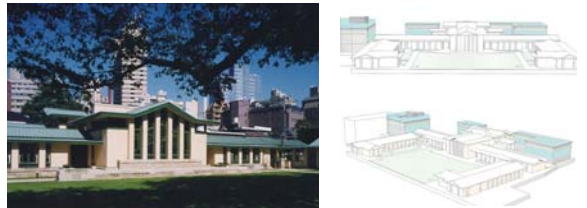
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン
- 7) 海洋利用のロバストネス建築デザイン

## ●ゼミナールのテーマ

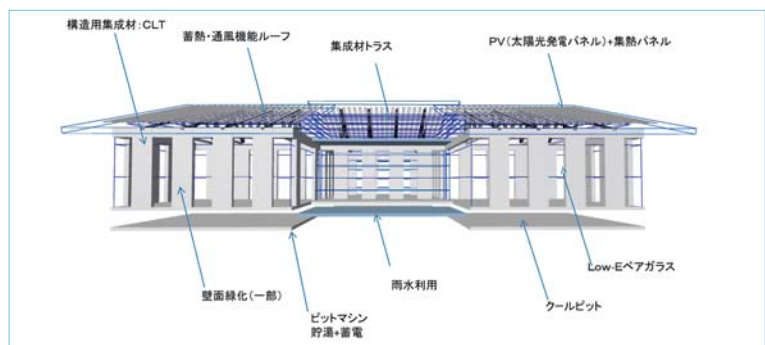
ゼミナールでは、建築設計の基本的知識およびデザイン手法の指導と、自分の建築作品を相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上も課題に取り組んでまいります。

## ●着手条件

建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生。デザイン演習の授業を受けて楽しいと思った学生がゼミ着手条件となりますので、基本的には卒研は卒業設計が基本となります。

復興提案：津波を「かわす・逃げ切れる」防災まちづくり  
宮城県気仙沼・岩手県宮古市田老地区歴史的建造物の動態保存とサステナブルエネルギー利用の提案  
自由学園明日館

東南海トラフ地震の津波被災想定地における普段使いの防災施設提案（S 市役所）



富岡町復興住宅地計画 ZEH復興住宅提案

## Teaching Staff

教授  
桜井 慎一助手  
寺口 敬秀

## ●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り、有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジューリングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

## ●ゼミナール活動

前期は、時間管理や就職等に関する座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。夏季休暇以降～12月までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は学会等で発表。就職活動にも役立ちます。

## ●過去の卒業研究およびゼミナールのテーマ例

## (A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ①ウォーターフロントの住宅を選ぶ住民の居住意識
- ②人工なぎさ造成政策と市民の環境価値評価
- ③ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ④高齢者に配慮した親水テラスの整備方法
- ⑤水中文化遺産を利用したダイビングスポットの整備

## (B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ⑦城郭水堀の保存整備と有効利用
- ⑧海への眺望を演出するスリットのサイズと効果
- ⑨景観を演出する効果的な水中ライトアップの使用例

## (C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ⑩ウォーターフロントにおける産業観光資源の発掘
- ⑪遊休化した地方漁港空間の有効活用方策
- ⑫浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ⑬灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ⑭洋上風力発電施設設置に対する漁業者の認識と評価



2018年度のWF見学会（横浜港）とゼミ旅行（南房総WF）

## (D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑮津波避難誘導標識の効果的な設置方策
- ⑯津波教訓碑の市民認知と後世への継承方法
- ⑰船舶を用いた帰宅困難者輸送の検討
- ⑱津波ハザードマップの表記統一と利用促進方法

## ●2019年度の主な行事予定

- ①ゼミ生歓迎会（5月）、②三番瀬体験散策会（6月）、③WF見学会（7月）、④夏季研修旅行・北陸（9月）、⑤学術講演会での論文発表（12月）、⑥ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦桜井研卒発表会（2月）

## ●ゼミナールおよび卒業研究の着手条件

説明会参加者の中から個人面談を行います。ウォーターフロント計画Ⅰ、Ⅱ、建築法規、海洋政策と関連法規等の科目を履修していることが望ましいです。大学院進学希望の学生は、面談時に教えてください。

## ●2018年度に行ったゼミナール研究論文テーマ

- 飯尾誠也：リゾートマンションの定住者とセカンドハウス利用者の防災意識の差異の研究  
梅田敢司：親水公園利用者の経年変化に関する研究  
岡田寛冬：地域活性化に寄与するダム観光・レクリエーションとしての利活用方法  
越智源太：南海トラフ地震被災想定地域における市町村間の相互支援連携に関する研究  
貝瀬慶伍：宮城県における津波避難ビルの整備状況の変化と建設促進に向けた方策の研究  
斉藤征大：西日本豪雨被災地における氾濫河川と避難場所の位置関係に関する研究  
鈴木勝智：日本に寄港するラグジュアリークルーズ船の現状と課題に関する研究  
鈴木 諒：農業用水路の多目的利用に関する研究  
武内皆希彦：ため池の特性を活かした利活用方法の現状と課題に関する研究  
竹野巧人：長距離フェリー航路の現状と増設・利用促進に向けた各社の取組みに関する研究  
徳田 凌：南海トラフ地震被災想定地域における津波防災ワークショップに関する研究  
長澤敏樹：観光客の津波避難誘導に向けた観光地の防災対策に関する研究  
前田 賢：調整池・調節地・遊水地の多目的改修整備に関する研究  
横山正侑子：Instagram投稿写真の分析による日本人と外国人の興味対象の差異に関する研究



## Teaching Staff

専任講師  
佐藤 信治

## ●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画することも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%を維持しています。

## ●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

## 〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・内蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3Dプリンターを活用した自動建築システムの構築
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン

## 〈建築計画テーマ〉

- ・秋田県増田町地区の登録有形文化財の調査
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

## 〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、秋田県横手市増田町地区とコラボレーションしました。合宿期間中においては、自ら調べ、様々な建築物をデザインし、最終的には市民の前でプレゼンテーションし、交流を図ります（写真1）。

また、2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。2018年は西安市においてリゾート開発計画をデザイン（写真2）し、地方政府にプレゼンテーションを行ってきました。

さらに中国国内の唐山市においては、広大なウォーターフロントに水辺を活用したIR（インテグレートド・リゾート）Projectが進行中です（写真3）。

## ●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。桜建デザインコンクール2018入選（写真4）。

## ●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。卒業設計の事例：勝部秋高（写真5）



写真1



写真3



写真4

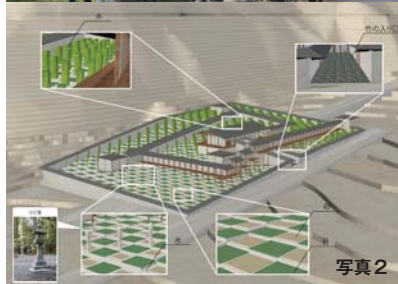


写真2



写真5

## Teaching Staff

助教  
菅原 遼特任教授  
畔柳 昭雄

## ●研究室紹介

本研究室では、「人と水との係わり」をテーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などの観点から、私たちの生活環境における水環境の意味を探り、生活環境の質的向上に寄与する親水空間や海洋建築の計画的知見を得るための活動を行っています。

研究活動では、水との係わり方を実際に観察できる現地調査を重視し、フィールド・サーベイやオーラルヒストリーなどの調査手法を駆使して、都市部から農村部にかけての海や河川、運河などの多様な水環境をフィールドとした調査を行います。そのため、研究室では、「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、建築を見て、都市を感じ、水辺を知り、地域を理解するための関連研究・文献の紹介や、実際に水辺を訪れるまち歩きワークショップの開催など、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています（写真1）。

また、地域と連携した実際的な研究活動や設計活動もっており、研究成果のアウトプットや地域の方々との連携したものづくり経験を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会で活躍できる人材育成を行います（写真2）。

本研究室を卒業したOB・OGは、公務員や建設コンサルタント、ゼネコン、ハウスメーカー、内装設計など、都市・地域計画立案や建築設計施工に携わる企業に就職しており、こうしたOB・OGによる就職情報交換や大学院進学支援もを行っています。

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナール活動では、前期は、都市・地域・建築計画に対する思考力や表現力の修得に向けたゼミ課題を実施します。具体的には、IllustratorやPhotoshopなどの表現技術をわかりやすく丁寧に解説・指導します。また、デザインビルドを全国各地の海浜（2018年は千葉県佐原市、愛知県豊田市、新潟県佐渡市）で行います。後期は、修士・卒業論文と連携した活動を行い、文献・研究紹介や現地調査、学術講演会発表などを通して研究の基礎を養い、卒業論文の執筆に向けた自身の興味・関心の深化を図ります。

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究では、ゼミナール活動を通じて興味・関心を深めたテーマを中心に親水工学に関する調査研究を行います。近年の卒業研究のテーマは下記の通りです。

## 【都市・建築系】

- ・沿岸域の風土的建築物の環境特性に関する研究
- ・アジアの水上集落の地域建築特性に関する研究
- ・都市河川活用による地域づくりに関する研究
- ・水害常襲地域の地域建築対応に関する研究
- ・海拔ゼロメートル地域の地域建築対応に関する研究

## 【人間行動・意識系】

- ・親水空間における人間行動と評価に関する研究
- ・水害常襲地域の災害意識に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究
- ・生活用水の利用と行動および評価に関する研究
- ・親水型コミュニティを中心とした地域連携に関する研究

## 【地域・建築デザイン系】

- ・仮設性および移動性を考慮した建築物デザイン
- ・都市熱緩和のための親水空間デザイン
- ・水面活用のための海洋建築物デザイン
- ・漁港漁村活性化のための地域デザイン
- ・水面活用のための海洋建築物デザイン

## ●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。希望者は、研究室活動や卒業研究着手、就職活動に支障のないように単位を取得していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。大学院進学希望についても、個別面談時にご相談ください。



写真1 まち歩きWS（隅田川・神田川流域）や研究活動発表（江戸川区環境フェア）の風景

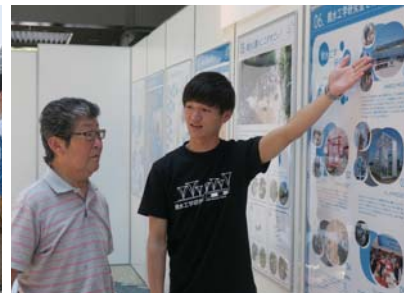


写真2 日本各地でのデザインビルドによる実践活動（左：Bamboo Pergola、右：一瞬亭）



## Teaching Staff

専任講師  
山本 和清

## ●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室で、特に高齢者・障がい者にも優しい「福祉のまちづくり」を主たる研究テーマとしています。近年では、要援護者（要配慮者）の津波からの避難計画に焦点をあてた研究にも取り組んでおり、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1・2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとし

ている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

## ●卒業研究のテーマ

## 【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

## 【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

## 【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

## ●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」ハンザ体験乗船会



写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会



写真4 新入ゼミ生歓迎会（見学会）



## Teaching Staff

教授  
北嶋 圭二

## ●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました(写真1)。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

## ●主要な研究テーマ

## 1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術の開発
- 1-2 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- 1-3 超高層 RC 造建物の柱および柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

## 2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究(写真2)
- 2-4 制震構造建物の性能評価・設計法に関する研究
- 2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発(写真3)
- 2-6 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究 etc



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 折返しブレースの取付状況



写真3 間柱型レンズダンパーの実験



写真4 低温実験室における氷海構造物の実験

## 3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究(写真4)
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

## 4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

## ●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

## ●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

## ●着手条件

構造に興味があり探究心旺盛な人。

## Teaching Staff

教授  
近藤 典夫

## ●研究室紹介

当研究室は、大スパン建築物や海洋建築物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして建築物および人間にどのような影響を与えているのかをメインテーマに掲げて研究を行っています。このような問題、特に高層建築物や波浪の影響下にある海洋建築物では、大きな揺れが発生しますので、それがどのような揺れ方になるのか、さらに人間の生活環境に対してどのように影響を及ぼすのかについて研究しています。当研究室では、上記のことを実施するに当たり、コンピューターによるシミュレーション手法を使って研究を行っています。

研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

## [1] 流体運動

- 1) 建築物まわりの気流の数値的研究
- 2) 建築物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋建築物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

## [2] 建築物の不安定振動

- 1) 風力を受けた建築物の渦励振・ギャロッピングの数値的研究
- 2) 海面下の海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

## [3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の静的・動的解析
- 2) 膜構造物の応力解析
- 3) 大型貯槽タンクの大変形解析・振動解析

## ●ゼミナールのテーマ

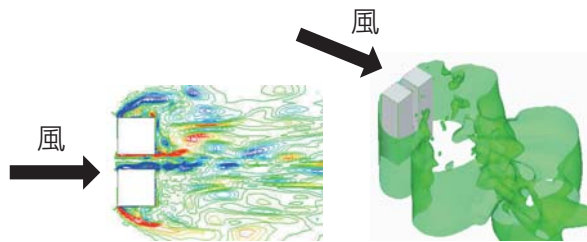
ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習とその応用問題を理解し、研究に必要な知識を修得します。内容としては以下を予定しています。

- 1) 弾性力学と流体力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法とその仕組み

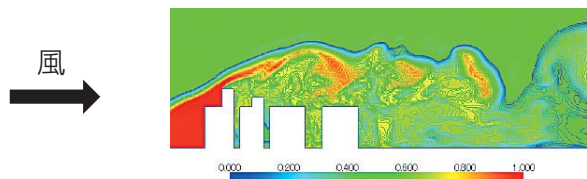
- 3) コンピューター・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

## ●着手条件

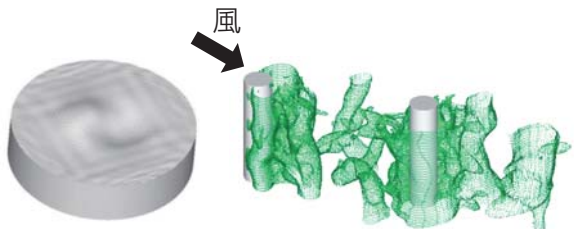
特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



卒業研究より：地震動を受けたタンク内の液面動揺

卒業研究より：直列2円柱の背後での渦の流れの様子



研究室のゼミ合宿：夏の軽井沢研修所



## Teaching Staff

教授  
福井 剛

## ●研究室紹介

**研究のこと**：私たちの研究室では、建築構造および材料Ⅱの後半で学んだプレストレストコンクリート（以下PC）構造（オープンキャンパスで皆さんが乗って驚いていたあのコンクリートの板です）を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC構造は、①ひび割れが生じないために沿岸域においても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることが可能です。また③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱や原子力発電所施設といった高性能が要求される構造体や、2002FIFAワールドカップや2020東京オリンピック施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。私たちの研究室での合言葉は、「研究成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」です。信頼性が高くシンプルで独創性に富んだ研究成果は、国や学会の設計規準に多く採用されており、対外的に高い評価を受けています。

**研究室の雰囲気**：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

## 年間行事

①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員と親睦を深めるために4月下旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

## ●今期予定の卒業研究テーマ

- 1) 長期荷重がPC造建物の地震後の性能に及ぼす影響
- 2) PC部材のせん断終局強度の統一的評価手法
- 3) PC有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) PC造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 5) プレキャストPC圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案
- 6) ボンドコントロールPCaPC梁の開発

上記の卒業研究の内、1)は実験を主体としており、フィールドワークが好きなお人に向いています。2)～6)は解析が

主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが。研究テーマ名だけでは良くわからなくてワクワク感がないかも知れませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組めばきっとはまります。

## ●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士構造系科目による演習
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2)は、それぞれ週1回私たち教員が担当し、テーマ3)は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分な時間が割けるよう配慮しています。基礎学力があり大学院進学を考えている学生は3年次から卒業研究に混ざってもOKです。

## ●着手条件

PC構造に興味があり、理解したいと思っている学生。研究室行事に積極的に参加して楽しい思い出づくりができる学生。研究室をきれいに使うことができる学生。であることを望みます。



写真1 実験風景（試験体寸法6m×2.3m）



写真2 夏合宿

## 海洋空間利用工学研究室

1341 室

## Teaching Staff

教授  
居駒 知樹助教  
相田 康洋特任教授  
増田 光一

## ●研究室紹介

当研究室は海洋再生可能エネルギー利用をはじめとして、海で利用する各種海洋建築物、海洋構造物が波や流れからどのような影響を受けて、どのように動くのかなどの波浪中の耐波性能の視点から設計を考える研究をしています。そのために波浪の性質なども研究の対象領域です。また、波浪だけでなく津波や高潮などの自然災害に関わる海洋波も研究対象であり、さらにそれらによる災害そのものや対策を考えることも当研究室の研究領域です。非常に研究領域が広がるため、必要な各種解析プログラムの開発やそのための理論構築、数値計算力学(CFD)的手法の開発を行っています。それらを駆使して、海上プラットフォームの新技術開発、波力発電・洋上風力発電浮体・潮流発電等のシステムの解析法開発・最適化、津波のような強非線形波浪による構造物への流体荷重や物体同士の衝突荷

重、津波被害予測と避難対策技術提案など、海洋空間を利用するために必要な工学技術全般に関わる研究と提案をしています。

## ●研究のキーワード：

浮体システム、海上・海域施設、流体解析、浮体挙動・振動、海洋再生可能エネルギー、津波災害・防災、強非線形海洋波、海洋空間利用・提案

## ●卒業研究のテーマ

研究室紹介に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づいて卒業研究を選択して実施します。

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究で必要となる基礎的なスキル・知識の修得を目指します。具体的には週1回の講義や演習形式のゼミナールを通じ、各種理論や計算方法を一から学びます。またテクノプレース 15 の大型水槽などを利用して海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場を、実験を通して体験しながら学びます。

## ●着手条件

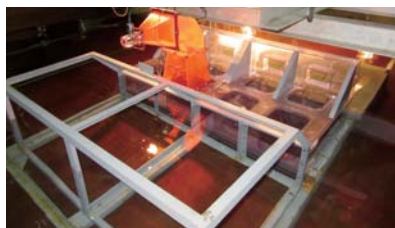
特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する防災や減災、避難に関する研究や、更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。



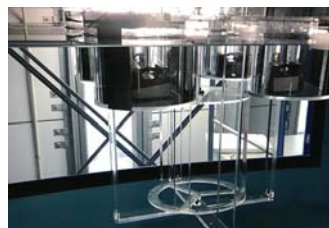
夏合宿(万座温泉)



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



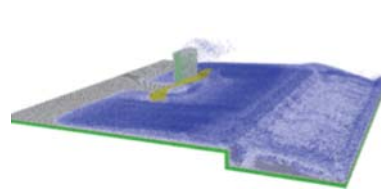
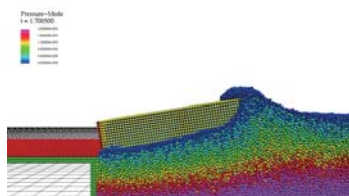
水柱振動型波力発電装置の水槽実験



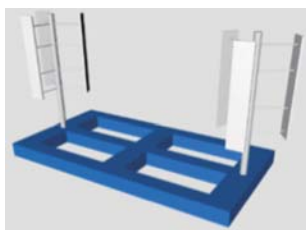
浮体式垂直軸型水車の実験模型



粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



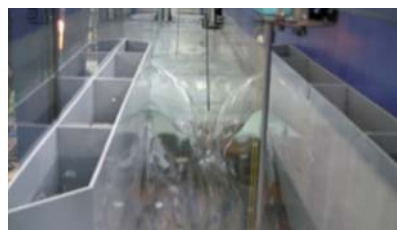
津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



浮体式垂直軸型洋上風車モデル



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による建築物間の縮流現象に関する実験



## 海洋構造デザイン研究室

1342 室

## Teaching Staff

准教授  
恵藤 浩樹

## ●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、その海洋建築物の実現に向けた技術的な課題の解決策を創造する研究活動を展開しています。そして社会が「海」に対し求める価値を主軸とし、アイデアを出し、デザイン（意匠設計の意ではない）を考え、検証と改善を繰り返レクオリティの高いものを生み出せる「デザイン思考」を身に付けた技術者の育成を念頭に指導します。新しく始まる研究室なのでOBやOGによる就職相談なども実施し卒業生も含め、皆と一緒に“楽しく”学べる研究室を創りましょう！

## &lt;研究室の主な年間行事予定&gt;

①ゼミ生歓迎会（4月末予定）、②タイピングコンテスト（7月）、③卒研・修論中間報告会（夏季）、④体験航海（8月）、⑤夏合宿（9月）、⑥卒研・修論最終報告会+打ち上げ（2月）、⑦卒業式、⑧お誕生会（各月）



大学院生とハワイ自然エネルギー研究所やすばる望遠鏡を視察  
（左：海洋温度差発電装置の前にて 右：マウナケア山頂にて）



標高 4205m、気温 0℃  
すばる望遠鏡

## ●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海の作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究テーマです。

- 1) 海洋建築物のニューコンセプトの提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 海洋構造物と海洋波との相互干渉影響などを考慮した運動応答特性の把握と性能評価
- 3) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の構造解析や、構造安全性の確保とその評価
- 4) GIS（地理情報システム）などデジタル情報技術を活用した海洋建築物の適地選定手法の開発
- 5) 数値計算による生態系ネットワークの解明 など

## ●ゼミナールのテーマ

卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ海洋や建築の基礎を、少し知識が乏しい状態からでも身に付けられる丁寧なゼミ活動を実施します。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
  - 2) PCのスキル（Officeによるレポートの書き方、CADを使用したモデリング、GISなど）を習得します
  - 3) コンピュータプログラミングの基礎を学びます
  - 4) 有限要素法の構造解析ソフト開発を通して基礎的な数値シミュレーション能力を身に付けます
- 一年後、上記のことを皆が出来るようになりますよ！

## ●着手条件

「海洋建築」が大好きなこと以外、特に条件は設けません。必要な知識やスキルは研究室所属後、共に学びましょう。また新しいコンセプトの海洋建築物やその構造計画、設計に興味があっても、一度研究室に来てください。院生含めて一緒に色々話しましょう。



Web



Instagram



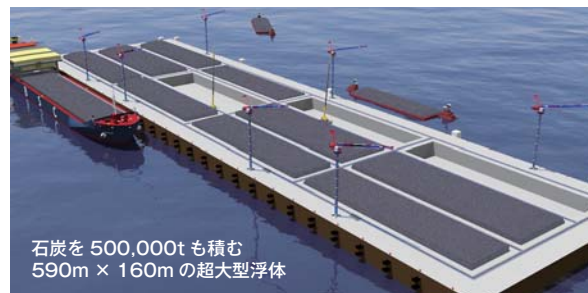
Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/lab0> (PCでの閲覧を推奨)

Instagram : [https://www.instagram.com/marine\\_structural\\_design\\_lab/](https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/)

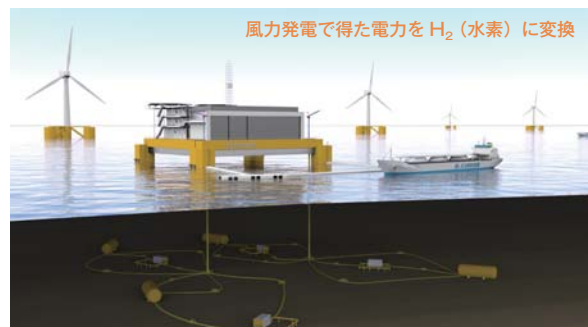
Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>

※ QRコードはLineの友達追加で読込可能、最新情報をCheck！



石炭を500,000tも積む  
590m × 160mの超大型浮体

インドネシアの石炭貯蔵・払出浮体基地の動揺特性把握と構造検討



風力発電で得た電力をH<sub>2</sub>（水素）に変換

深海の特性を応用した次世代水素生産・貯蔵エネルギー施設の提案

## Teaching Staff

教授  
小林 昭男助教  
野志 保仁

## ●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。

## 1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

## 2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷  
具体的には、次のような研究があります。

①千葉県富津岬の先端にある自然海浜の侵食状況を調べて今後の地形変化を推定した研究、②同じく千葉県館山市の見物海岸で発生した高波による護岸崩壊の調査と崩壊機構を明らかにした研究、③九十九里浜南部で毎年行われている養浜の効果をもたらした研究、④茨城県潤沼湖畔の地形変化が公園環境に及ぼす影響を明らかにした研究、⑤神奈川県七里ヶ浜で生じた砂浜消失による岩盤露出の過程を明らかにした研究、⑥ AI に



海岸環境の修復活動（福岡県水島）



ゼミ生歓迎会の様子

よる海岸地形変化を予測する研究、⑦海浜変形の地理情報と研究成果のデータベースを結合して QGIS 上で検索可能にした研究、⑧従来とは異なる新しい数値計算法による海岸から砂丘までの一貫した地形変化を予測する数値モデルを開発した研究、⑨大分県中津干潟の底質の移動機構を詳しく調べた研究、⑩ベトナム・ニャチャン付近の海岸侵食状況を調査して侵食の要因と侵食対策を示した研究

## ●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法も学びます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題を学びます
- 9) 先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ懇親の場も提供しています

## ●着手条件

海岸地形や海浜環境の再生・修復に興味があり、熱意をもってゼミナールや卒業研究に取り組める学生を求めます。また、海外での研究発表や大学院への進学を希望する学生も歓迎します。



## Teaching Staff



准教授  
星上 幸良

## ● 研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力等を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際の研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

## ● 卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

## [良好な環境保全を目指して]

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究



フィールドワークの様子

- ・最新技術を活用した環境計測に関する研究

## [安全安心な沿岸域を創造する]

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知, 合意形成に関する研究

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます
- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます
- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

## ●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、調査やコンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナールや卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真

## 新任教員紹介

准教授 星上 幸良 (ほしがみ・ゆきよし)

**専門分野** 海岸保全計画(津波・高潮・海岸侵食)、沿岸環境学、住民合意形成

**略歴** 1988年3月 日本大学理工学部海洋建築工学科 卒業、同年4月 国際航業(株)入社 海岸・海洋の調査・解析・計画設計に従事 2005年9月 日本大学理工学研究科海洋建築工学専攻 博士後期課程修了、2019年3月 国際航業(株)退社、4月より日本大学理工学部に着任

国内外の海岸侵食や沿岸域管理の実務に係わる中で、海岸での物理現象や人為的圧力に興味を持ち、仕事の傍ら調査研究に取り組む。恩師の助言で社会人博士課程を受講し修了。更に東日本大震災の復興事業に係わり、海と人間社会の接点である沿岸域管理の重要性を再認識した。30余年のコンサルタントとしての実務経験を活かすべく母校に就学。

沿岸域で生じる、海岸侵食や津波高潮による災害、環境破壊などの諸問題は、人間の社会活動による影響が大きい。また、こうした問題は、海岸の物理現象や動植物の生息環境に加えて、その地域の歴史や人間の思惑が、複雑に絡んだ“縮図”である。

私たちの領域では、こうした縮図を「推理小説」の如く、最新技術を活用して客観的かつ科学的に紐解き、問題解決の糸口を探る。多様な分野を学べる海洋建築ならではの面白さに触れながら、環境保全と防災を両立するには人と自然がどのように係われれば良いか？について、みなさんと語り合える事を期待しています。

## 卒業論文

## +

## 修士論文

## 小林(直)研究室

## 卒業設計・論文

- ◆石川晃 保存から始まるこれからの文化財  
～市有形文化財の動態保存のモデル～
- ◆植田祐基 建築業界の労働環境問題改善に関する研究  
～AI技術で改善を図る～
- ◆大関慶信 湯吊  
～一時避難施設としての温泉利用～
- ◆栞谷拓実 新宿農家学技術センター  
～農業の循環施設の提案～
- ◆住吉文登 海都之交  
～都市は水没を受け入れるか?～  
これからの木材について  
～林業と人工林と木造の融合～
- ◆服部立 Singapore Aquatecture  
～シンガポール市街地における貯水池の建築化～
- ◆増田伸 Lagoon City TSUKIJI
- ◆吉本麗音 大学博物館の問題点と改善策  
～CSTミュージアムの改善計画の提案～
- ◆渡邊裕太 Wooden FISHING PORT  
～CLTによる漁港再生～
- ◆青木拓己 日本大学理工学部 船橋キャンパス改装計画  
～これからの大学～

## 修士論文

- ◆加藤毅三 複合施設(プロトタイプ)のCASBEE評価における設備設計シミュレーション

## 桜井・寺口研究室

## 卒業論文

- ◆海老原碧 離島に寄港するクルーズ船の効果と課題に関する研究
- ◆小坂翔平 港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存に関する研究
- ◆中田佳宏 海上ウォーターパークの整備実態と効果に関する研究  
～熱海サンビーチおよび逗子海岸の利用者を対象として～
- ◆藤田優美 ウォーターフロント住宅における居住環境意識の経年変化に関する研究  
～東京・南千住と千葉・幕張の集合住宅を対象とした調査～

## 修士論文

- ◆池ヶ谷典宏 砲台跡地の利活用方針立案に関する研究  
～東京湾要塞を対象として～
- ◆野口翔 東日本におけるクルーズ振興に関する研究  
～新たな寄港候補地の選定と効果的な誘致方策の検討～

## 佐藤研究室

## 卒業設計

- ◆勝部秋高 屋木苜の梯子  
～ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園～
- ◆篠原健 不時着する命の杜  
～海上の循環保全都市～
- ◆高橋遼太郎 雫の紡ぎ手  
～ソマリアに建つ水を自給自足するウェルネスクャンプの提案～
- ◆山本淳樹 古街新都
- ◆山本壮一郎 極夜の篝火  
～冬の北極海に浮かぶ氷の集落～
- ◆渡辺真理恵 意職住  
～復興集落の設計～
- ◆ルネンコヴァ・アナスタシア Sasyk-sivash 湖の健康リゾートタウン
- ◆根本一希 痕跡の行方  
～生を具現化した風景がつくる死と人との新しい距離感～
- ◆三枝晃 浮かぶ瀨を  
～墓地スラムの居住権獲得へ～
- ◆櫻井南実 結の丘
- ◆笹川雄基 柳都再生  
～信濃川下流の湊まちを紡ぐ観光拠点計画～

## 修士設計

- ◆上田紗矢香 カンボジア王国シエムリアップ州における観光施設計画  
～トンレサップ湖の複合水上交通拠点の設計～
- ◆蒲生良輔 統合型リゾートとしての横浜山下ふ頭開発計画  
～日本文化をテーマとした複合観光施設の設計～
- ◆佐々木秀人 高度外国人材の誘致を目指した複合研究施設の提案  
～滋賀県大津市琵琶湖畔における滞在型学術交流施設の提案～
- ◆永富快 沖合漁業を対象とした浮体式水産施設の提案  
～小笠原諸島父島沖における物流及び観光拠点の設計～
- ◆宮嶋悠輔 東京湾湾口における複合観光施設を併設した国際海上コンテナターミナルの提案

## 親水工学研究室

## 卒業論文

- ◆秋元千秋・大木賢祐 地域活性化に資する水上アクティビティの役割に関する研究  
～都市河川を活動拠点としたSUP団体の活動実態と課題～
- ◆石川弘英 ビジター受入導入による漁港の利用管理の実態に関する研究
- ◆佐藤絆里 水辺の飲食店の成立経緯と関連法制度に関する調査研究
- ◆田中孝登 海上公園における水辺環境を考慮した空間利用および管理運営のあり方に関する調査研究
- ◆野中康太郎 洪水災害発生時の住民行動にみる避難行動プロセスの実態に関する調査研究  
～岩手県岩泉町における2016年台風10号を対象として～
- ◆湯淺直之 東京都区部における親水公園の空間利用と管理実態に関する調査研究
- ◆吉澤果南 水辺のエリアマネジメント活動の活動実態からみた水辺の効果に関する研究  
～全国エリアマネジメントネットワーク加盟団体を対象として～
- ◆宗原咲来 日本全国の川床にみる水辺との係わり方に関する研究
- ◆滝口日向子 日本橋地域における水辺開放の取り組みにみる地域連携の特徴に関する調査研究

## 修士論文

- ◆飯塚智哉 溢水被災者の生活再建過程の構造化に関する研究

## 山本研究室

## 卒業論文

- ◆荒木優佑 防災船着場の利用条件及び利用方法の統一化に関する研究
- ◆岡田航貴 津波ハザードマップから見る避難場所の安全性に関する研究
- ◆北山雅雄 南海トラフ地震における津波防災を対象とした復興事前準備に関する研究
- ◆坂口翔太 海水浴場のバリアフリーイベントの有効性と啓発に関する研究
- ◆鈴木海人 ユニバーサルビーチ周辺施設のバリアフリー整備状況に関する調査研究
- ◆鈴木康平 海水浴場における水難事故防止方策に関する研究
- ◆友枝萌子 沿岸域の自主防災組織における女性参画の必要性とその在り方に関する研究
- ◆永井 勇輝 津波災害時における観光施設等の外国人観光客への避難誘導に関する研究
- ◆西島航太 海水浴場利用者の求めるユニバーサルビーチのあり方に関する研究
- ◆沼田理央 東日本大震災後における復興イベントの地域貢献度に関する研究
- ◆羽出啓人 漁業集落の復興まちづくりにおける合意形成に関する研究
- ◆藤城佑里花 若年層における新規漁業就業者の増加要因に関する研究
- ◆藤本力稀 地域活性化に寄与する海水浴場の通年利用の在り方に関する研究
- ◆森拓実 災害種別避難誘導システム及び災害種別のビクトグラムに関する基礎的研究
- ◆宮川寛 海水浴場における利用者数の増加要因に関する研究
- ◆古迫つぐみ 災害時要援護者名簿の回収率向上に関する研究  
～黒潮町における戸別津波避難カルテを比較対象として～

## 修士論文

- ◆狩野悠介 津波災害を想定した復興事前準備に関する基礎的研究  
～漁業集落の生活再建に着目した分析～

## 北嶋研究室

## 卒業論文

- ◆新井義夫・今津祥地郎 スラブ付RC造十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験  
～その1 実験概要～  
～その2 実験結果～
- ◆大舛久隆・小松裕 平面的不整形建物を想定した滑り基礎構造の振動台実験  
～その1 基礎板を小割りにした滑り基礎構造の二方向振動



## 卒業論文

## +

## 修士論文

- 台実験の概要～  
～その2 二方向振動台実験の結果～
- ◆金丸凌大・土屋和貴  
フィリピン・セブ島のRC校舎の耐震性能評価および耐震補強に関する研究  
～その1 耐震性能評価～  
～その2 耐震補強設計～
- ◆川北章悟  
低透水層に形成される水膜が起因となる海底地すべりに関する実験的研究
- ◆菊地謙太  
折返しブレースの累積塑性変形性能に関する研究
- ◆原口健太  
固有周期の変化率による建物損傷度の評価方法に関する研究
- ◆日高有理子・蔵本彩奈  
市川市新田2・3丁目の地震時における避難計画に関する研究  
～その1 簡易耐震診断とブロック塀の調査～  
～その2 避難場所までの避難路について～
- ◆古田萌香・酒井論子  
津波漂流物の衝突を想定した衝撃実験における荷重評価  
～その1 実験概要及び静的載荷実験結果～  
～その2 衝撃実験結果～
- ◆増山奈穂  
あと施工せん断補強筋を用いたRC造のせん断補強筋に関する実験的研究
- ◆矢部春恵  
ラーメン架構の柱及び免震部材のP-Δ効果に関する研究
- ◆巨塚太郎  
RC造間柱型ダンパーを設置したRC造建物の制震設計スタディー

## 修士論文

- ◆小山大樹  
RC造間柱型ダンパーを設置した制震構造建物の制震効果に関する研究
- ◆新保拓海  
間柱型レンスダンパーのエネルギー吸収性能に関する研究
- ◆関口聖也  
力学的相似則を適用した滑り基礎構造建物の振動台実験及び応答性状に関する研究
- ◆山本圭太  
折返しブレースの座屈拘束効果と変形性能に関する研究

## 近藤研究室

## 卒業論文

- ◆康雲  
五重塔まわりの流れに関する数値計算
- ◆山崎潤平  
入射角15度における角柱の流体力振動に関する三次元数値解析
- ◆遠藤優太  
円筒形タンク内の加振振幅を変化させた場合のスロッシング解析
- ◆岡田貴裕  
円筒形貯槽タンクの有限要素解析
- ◆小笹真由美  
正方形角柱のギャロッピング振動に関する3次元数値解析
- ◆野口航太  
隅切りのある角柱の振動特性に関する数値解析
- ◆三嶋亮汰  
低スクルートン数域の直列2円柱の振動特性に関する数値解析
- ◆向井一輝  
間隔比の変化による直列2角柱の空力特性に関する数値解析
- ◆山田涼介  
臨界レイノルズ数における2次元円柱の流体力及び渦動振に関する数値解析
- ◆林拓彌  
並列2円柱の空力振動に関する数値解析

## 修士論文

- ◆吳超楚  
並列2角柱に作用する流体力及び流体力振動に関する3次元数値解析
- ◆横山侑伸  
入射角を有する角柱のギャロッピング振動に関する3次元数値解析

## 福井研究室

## 卒業論文

- ◆岡崎佑紀  
逆対称曲げ条件下におけるアーチ機構モデルの提案
- ◆岡田和俊・陳治・須永大輔・横山実花  
鉛直荷重を受けるRC架構の地震時挙動に関する実験的研究  
～その1 実験概要～  
～その2 実験結果～  
～その3 実験値及び解析値に対する考察～
- ◆加藤廉平・大和田悠  
PC骨組の地震時の力学的挙動に関する解析的研究  
～その1 解析概要および結果～  
～その2 パラメトリックスタディー～
- ◆苅部航佑  
PC骨組の力学的挙動に及ぼす不静定応力の影響に関する解析的研究
- ◆駒田敦也・小島慶之  
実大プレストレスト木質構造梁の長期載荷実験  
～その1 実験概要～  
～その2 実験結果と考察～
- ◆鈴木大喜・東谷健太郎  
ト形柱梁接合部の終局強度に及ぼすアスペクト比の影響  
～その1 既往の研究～  
～その2 マクロモデルに基づいた理論的提案～
- ◆松原巧真  
ファイバー法によるPC部材の曲げ変形性能支配要因
- ◆翠優介  
RC部材とPC部材の統一せん断耐力評価式の研究

- ◆山本吏桃  
円形開口を有するPC梁のせん断耐力式の提案

## 修士論文

- ◆石井誠士  
PC鋼材の付着がPC梁のせん断抵抗機構に及ぼす影響に関する実験的研究
- ◆矢田光輝  
PC骨組の地震時および地震終了後の力学的挙動に関する解析的研究

## 居駒・恵藤・相田研究室

## 卒業論文

- ◆下本瀬夏・北島佑一  
GISによる災害時医療支援浮体の規模算定および適地選定に関する基礎的研究  
～その1 町丁目負傷者の算定およびクラッシュ症候群患者の分布～  
～その2 ボロノイ図による適地選定および規模算定～
- ◆古矢祥一郎  
OWC型波力発電装置を搭載した大型浮体の一次変換特性に関する基礎的研究
- ◆高橋正英・守津颯哉  
ムーンプールを有するポンツーン型浮体の形状による動揺特性の違いに関する研究
- ◆鈴木雅洋  
一様流中において回転する円柱構造物のVIV応答特性に関する実験的研究
- ◆佐藤良樹  
一様流中に置かれた浮体式垂直軸型水車に働く全流体力への回転影響に関する実験的研究
- ◆小泉和人  
固定式洋上風力発電施設の円柱部周辺へのCFDによる流体力解析に関する基礎的研究
- ◆平井翔太  
振動水柱を有する空気室の容積の縮尺影響と非線形影響に関する実験的研究
- ◆橋本和樹  
振動水柱型波力発電装置の空気室容積と縮尺影響に関する基礎的研究  
CFD計算による考察
- ◆佐野敦紀・山口耕一郎  
深海を活用した水素生産・貯蔵施設の電解水冷却システムに関する基礎的研究
- ◆木村亮介・宮崎高橋  
浅海域における浮体式PW-OWC型波力発電装置の一次変換性能に関する研究
- ◆西河内亮・野尻連太郎  
大型石炭貯蔵浮体に生じる塑性歪みに関する基礎的研究
- ◆立川潮・佐藤英仁  
大型石炭貯蔵浮体の動揺特性に関する基礎的研究
- ◆関口諒  
大型船舶が接舷された大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性に関する研究  
～カテナリー係留された大型石炭貯蔵浮体の運動応答～
- ◆奥井智也・今野聡太  
津波襲来時における藤沢市沿岸部の避難困難地域に関する基礎的研究
- ◆関一真・百木秀簡  
津波漂流物の衝突時の流体力影響に関する実験的研究
- ◆細谷昂  
物流機能維持に向けた港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究
- ◆山田瑞照  
洋上風力発電基礎杭の設置作業中のクレーン船の波浪中動揺に関する基礎的研究
- ◆櫻井草太・佐藤仁  
離島港湾における係留船舶の応答特性と係留索張力に関する実験的研究
- ◆大野拓巳  
離島港湾における非接岸係留された係留船舶の応答特性と係留索張力に関する基礎的研究

## 修士論文

- ◆大村奏  
急峻な地形の大水深海域に係留される浮体の応答特性に与える係留索長さの影響に関する基礎的研究
- ◆木原禎之  
振動水柱型波力発電装置の縮尺影響が空気室特性に与える影響に関する基礎的研究
- ◆古川翔  
相模湾沿岸地域における浸水域外避難を前提としない津波避難方法に関する基礎的研究
- ◆敷田曜  
大型船舶が接舷された大型石炭貯蔵浮体システムの応答量に関する研究
- ◆中村允  
縦軸風車を複数搭載したムーンプールを有する浮体の波浪中応答特性に関する基礎的研究
- ◆村田大地  
MPS法の弾性体モデルを適用した構造物の津波漂流物衝突時の弾性応答解析に関する基礎的研究

## 卒業論文

## +

## 修士論文

## 大塚研究室

## 卒業論文

- ◆ 荒牧優介 三番瀬における放射能汚染について
- ◆ 小原聖人 江戸川および荒川から東京湾に流入する放射性セシウム量の推定について
- ◆ 佐々木凌太郎 東京湾を対象にした生態系ネットワークに関する基礎的研究  
～浮遊経路の検証に向けて～
- ◆ 前田智宏 東京湾における放射性物質の拡散に関する研究  
～多摩川から東京湾に流入する放射性物質の推定～
- ◆ 山口芽依 東京湾を対象にした二枚貝浮遊幼生の動態に関する基礎的研究
- ◆ 藤本太郎 葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量の変動解析

## 修士論文

- ◆ 橋本宗侍 東京湾における放射性セシウムの堆積に関する基礎的研究

## 岡本研究室

## 卒業論文

- ◆ 立石翔太郎 循環型浄化システムを用いた微生物直接投入法による堆積汚泥からの放射性セシウム除去  
～アルカリゲネスフェカリスとマリンバクテリアの微生物種による浄化性能比較～
- ◆ 許亞豪・李傳文 炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験  
～交番電圧による4電極と5電極の場合の浄化性能～
- ◆ 小林和貴・上野橋平 循環型浄化システムを基にした連続稼働システムによる水質浄化効果

## 修士論文

- ◆ 野川大輔 炭電極を用いた電気分解法におけるpH制御による水質浄化システム  
～アルカリゲネスフェカリスとマリンバクテリアの微生物種による浄化性能比較～

## 小林昭・野志研究室

## 卒業論文

- ◆ 三田圭吾・根本幸広・古川雷太 一宮海岸における養浜効果の検証に関する研究
- ◆ 阿部香之介・矢口有美 横須賀市猿島における地形変化に関する研究
- ◆ 勝山湧太・田邊佑介 潤沼広浦砂州における養浜効果の検証に関する研究
- ◆ 木部崇之・下村茉璃乃 データベース化された既存論文のQGISを用いた活用法
- ◆ 熊谷拓也・畑中翔吾 中里海岸における養浜効果に関する研究
- ◆ 関根雅人・馬場淑弘 茨城県潤沼親沢鼻における湖浜変形の要因と影響に関する研究
- ◆ 高橋良輔・宮崎蓮 一松海岸における養浜効果の検証に関する研究
- ◆ 田邑奈々・倉上勇人 潤沼中石崎の養浜による湖浜変形と植生範囲の変化
- ◆ 森田茉夕 遡上波による浸透流が海浜地形に与える影響に関する基礎的研究

## 修士論文

- ◆ 西村亜子 遡上波による浸透流が海浜地形に与える影響に関する実験的研究
- ◆ 西村和真 2方向波浪場における陸繋砂州の形成に関する研究
- ◆ 宮田隆平 海浜の改変に適合した漂砂量係数の設定に関する研究
- ◆ 村田昌樹 砂州形成に影響を及ぼす洞穴通過漂砂量の設定方法に関する研究
- ◆ 横田拓也 飛砂による地形変化を考慮した海浜地形変化予測モデルに関する研究
- ◆ 和田夏海 多様な利用者を対象とした海浜安定汀線形状の簡易算出システムの開発

## 卒業論文・修士論文の成果発表

## 卒業研究発表会

2月2日(土)に開催された各研究室的代表者による卒業論文発表会。2018年度は12研究室18名による研究発表が行われた。



## 修士論文審査会

2月25日(月)・26日(火)の2日間で開催された海洋建築工学専攻の修士論文審査会。2018年度は32名による研究発表が行われた。





## 教員研究業績 研究室活動業績

### 小林(直)研究室

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆中村圭佑：境界に芽吹く町、日本建築学会大会(東北)デザイン発表会 学術講演梗概集、2018.9.
- ◆東角井雅人：パーソナルモビリティシティ パーソナルモビリティと建築の複、日本建築学会大会(東北)デザイン発表会 学術講演梗概集、2018.9
- ◆藤山翔己：アグリカルチャー・リサーチ・コンプレックスセンター築地市場跡地計画として食文化発信施設群提案、日本建築学会大会(東北)デザイン発表会 学術講演梗概集、2018.9
- ◆星野智美：芸術発展都市 ART を通したコミュニケーション、日本建築学会大会(東北)デザイン発表会 学術講演梗概集、2018.9
- ◆加藤毅三：水上飛行機を活用した新しいウォーターフロント施設群の提案、霞ヶ浦世界湖沼会議 ポスター発表、2018.10

#### 著書・執筆等

- ◆伊澤岬・小林直明・轟朝幸：3.11 復興プロジェクトの挑戦とその射程、彰国社、2018.12

#### 受賞等

- ◆伊澤岬・畔柳昭雄・小林直明・轟朝幸・江守央・加藤毅三：ANA ていくおふ創刊

40周年記念企画の懸賞論文 優秀賞、「3.11 復興・オリンピック後の新たな社会システムの構築をめざして水上機による地方創生ネットワーク構想」、2018.3

- ◆服部立・住吉文登・(以下佐藤研究室)山本壮一郎・根本一希・桜井南実：日本建築学会設計競技 2018 東海支部入選、日本建築学会、2018.9.
- ◆中村圭佑・佐藤未来・加藤柚衣・赤堀厚史(佐藤研究室)：日本建築学会設計競技 2017 全国入選佳作/タジマ奨励賞、日本建築学会、2017.9
- ◆島田将武・浅野健・松下知可(佐藤研究室)・青木絵子(佐藤研究室)：日本建築学会設計競技 2017 四国支部入選、日本建築学会、2017.9
- ◆服部立：建築新人戦 16 選、2017.9

#### 学外活動(委員会活動等)

- ◆日本建築学会代議員
- ◆日本建築学会「歴史的価値を有する大規模木造宿泊施設の安全性確保特別調査委員会」委員
- ◆日本建築学会海洋建築部会委員
- ◆SDC 太陽エネルギーデザイン研究会理事
- ◆水上空港ネットワーク研究会 幹事

### 桜井・寺口研究室

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆唐崎雄介・桜井慎一・寺口敬秀：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 - 三重県を対象とした避難時線路横断の必要性がある地区の抽出 -、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31 講演番号 4-4、2018.7
- ◆関口潤耶・桜井慎一・寺口敬秀：景観に配慮した防潮堤の整備方法に関する研究 - 岩手県および宮城県を対象とした整備計画事例の考察 -、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31 講演番号 8-4、2018.7
- ◆野口翔・桜井慎一・寺口敬秀・丸山敬之：クルーズ船寄港地に適する港の選定と整備方針に関する研究 - 北海道を対象とした自治体と漁協への調査 -、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31 講演番号 13-3、2018.7
- ◆唐崎雄介・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 - 全国沿岸の危険地区の抽出と鉄道事業者が行っている対策の現状 -、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 pp.9-10、2018.7
- ◆倉田直樹・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：津波避難誘導標識の建築を誘導する条例・制度に関する研究 - 南海トラフ地震津波対策特別強化地域を対象としたアンケート調査 -、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 pp.11-12、2018.7
- ◆小林駿邦・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：津波避難誘導標識の効果的な設置方法に関する研究 - 鎌倉市における設置状況と課題 -、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 pp.13-14、2018.7
- ◆野口翔・桜井慎一・寺口敬秀・関井樹：水上飛行機の就航地に適する漁港の選定 - 三陸地域を対象とした就航能力に基づく考察 -、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 pp.27-28、2018.7
- ◆池ヶ谷典宏・桜井慎一・寺口敬秀：要基跡地の観光資源化に関する研究 - 全国を対象にした現状と課題 -、2018 年度日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 pp.31-32、2018.7
- ◆寺口敬秀・桜井慎一：日本における水中文化遺産の分布とダイビング活用から見た今後の展望、第9回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム論文集 pp.95-102、2018.9
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・関井樹・野口翔：水上飛行機の就航地に適する漁港の選定に関する研究 - 三陸地方を対象とした分析 -、土木計画学研究・講演集 Vol.58 講演番号 P123、2018.11
- ◆野口翔・桜井慎一・寺口敬秀：クルーズ船誘致活動の実態と影響に関する研究 - 東日本の寄港実績のある港湾に対する調査 -、平成 30 年度第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集 pp.663-664、2018.12
- ◆小林駿邦・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：蓄光式夜間誘導標識の効果的な設置方法に関する研究 - 設置間隔別視認性評価の実験結果 -、平成 30 年度第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集 pp.665-666、2018.12
- ◆藤田優美・桜井慎一・寺口敬秀・関口潤耶：ウォーターフロント住宅における居住環境意識の経年変化に関する研究 - 東京・南千住の集合住宅を対象とした調査 -、平成 30 年度第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集 pp.667-668、2018.12
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・野口翔：クルーズ船誘致に向けた自治体の取り組みに関する研究 - 北海道を対象とした整備方針の把握と課題の抽出 -、第 33 回日本観光研究学会全国大会学術論文集 pp.193-196、2018.12

#### 受賞等

- ◆渡邊亮・桜井慎一・鷹島充寿：日本沿岸域学会論文賞、津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究 - 全国の沿岸市町村における不統一の現状と課題 -、日本沿岸域学会、2018.7
- ◆渡邊亮・桜井慎一・鷹島充寿：日本海洋工学会 JAMSTEC 中西賞、津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究 - 全国の沿岸市町村における不統一の現状と課題 -、日本海洋工学会、2019.3

#### 学外活動(講演・講義等)

- ◆寺口敬秀：クルーズ船寄港地に適する港の選定手法と整備方針に関する研究、平成 29 年度未来のみなとまちづくり助成成果報告会、2018.6

#### 学外活動(委員会活動等)

- ◆桜井慎一：船橋市・開発審査会 会長
- ◆桜井慎一：横須賀市・西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会 委員長
- ◆桜井慎一：船橋市・まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆桜井慎一：船橋市・JR 南船橋駅南口市有地活性化専門委員会 委員長
- ◆桜井慎一：館山市・建設工事総合評価委員
- ◆桜井慎一：館山市・第三中学校改築工事基本設計業務委託提案審査委員会 委員
- ◆桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター・科学技術専門家ネットワーク専門調査員
- ◆桜井慎一：日本沿岸域学会 理事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築計画小委員会 幹事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・津波建築システム小委員会 委員

#### 海外出張・海外調査

- ◆桜井慎一：中国での大型クルーズ観光事業の実態調査のため、中国・深圳および香港、2018.10.31-11.4

#### 研究助成・受託研究

- ◆桜井慎一：文部科学省科学研究費・基盤研究(C)、東日本におけるクルーズ客船の寄港地選定
- ◆桜井慎一・寺口敬秀：研究奨励寄付金、公益財団法人大林財団、津波避難ビルの建築を誘導するための条例・制度に関する研究
- ◆桜井慎一・寺口敬秀：研究奨励寄付金、日本沿岸域学会、鉄道線路が津波避難の阻害要因とならないための適切な横断施設設置場所の検討
- ◆寺口敬秀：研究奨励寄付金、一般財団法人みなと総合研究財団、クルーズ船寄港地における「みなとオアシス」の認定効果に関する研究

## 佐藤研究室

## 審査付論文

- ◆佐藤信治：展示水槽及び展示形態の規模別の変遷について 水族館における観覧空間の分析 (1)、日本建築学会技術報告集、巻 58 号：pp.1167-1172.2018-10

## 口頭発表・ポスター発表

- ◆上田紗矢香・佐藤信治：カンボジアにおけるトンレサップ湖水上フェリーターミナルの提案—気候と共存する建築様式を活かした施設的设计—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.697-698、2018.12.
- ◆佐藤信治・永富快：小笠原諸島周辺における浮体式漁業基地の設計—沖合・遠洋漁業の生産物流拠点としての複合施設—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.701-702、2018.12.
- ◆宇津里緒菜・渡邊康介・横畑佑樹・永富快・黄起範・佐藤信治：増田蔵内通り、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.693-694、2018.12.
- ◆佐藤信治・蒲生良輔：長期滞在型リゾートとしての Ryokan の設計—旅館をグローバル化するための基幹となる施設設計—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.695-696、2018.12.
- ◆佐藤信治・桜井南実：辺野古における地域振興を目的とした複合施設設計画、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.699-700、2018.12.
- ◆佐藤信治・笹川雄基：川湊のまちを紡ぐ、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.703-704、2018.12.
- ◆佐藤信治・佐々木秀人：高度人材を対象とした発信・交流の場となる複合文化施設の提案—水環境を活用した研究促進のための国際ラーニングセンターの設計—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.705-706、2018.12.
- ◆佐藤信治・渡辺真理恵：新しい堤防による親水集落の設計、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.707-708、2018.12.
- ◆佐藤信治・篠原健：海上都市 New Tokyo—空き家を利用した新しい都市開発—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.725-726、2018.12.
- ◆佐藤信治・山本淳樹：東京の街にコントラストを生むことで意識を変える街の提案、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.727-728、2018.12.
- ◆佐藤信治・勝部秋高：Disaster mitigation skyscraper、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.729-730、2018.12.
- ◆佐藤信治・三枝寛：ナボタス共同墓地の墓地スラムにおける発展—墓地スラムの居住権獲得—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.731-732、2018.12.
- ◆佐藤信治・ルネンコヴァ・アナスタシア :Sasyk-sivash 湖の健康リゾートホテル、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.733-734、2018.12.
- ◆佐藤信治・高橋遼太郎：ソマリアにおける結露水を用いた建築の提案、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.735-736、2018.12.
- ◆佐藤信治・宮嶋悠輔：東京湾口における国際海上物流拠点の設計—次世代型複合観光拠点としての計画—、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.737-738、2018.12.
- ◆佐藤信治・山本壮一：北極海における調査研究施設の設計、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.739-740、2018.12.
- ◆佐藤信治・笹川雄基：川湊のまちを紡ぐ、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.703-704、2018.12.

## 著書・執筆等

- ◆佐藤信治、他 7 名：空間デザインを学ぶ 四訂版、DTP 出版、2018.0919
- ◆佐藤信治 他著：第 41 回 学生設計優秀作品展—建築・都市・環境—大学・専門学校卒業制作 大学院修士設計作品集、レモン画翠出版部、2018.05、pp.74.108
- ◆佐藤信治 他著：第 15 回 JIA 関東甲信支大学院修士設計展、(株)総合資格学院、2018 年 2 月 20 日、pp.238-239

- ◆佐藤信治ほか編：著：OASIS 加盟校学生作品集「2018 年度版」、エーアンドエー株式会社、2018 年 8 月 22 日

## 作品等

- ◆佐藤信治 + AtelierK：「御堂筋線動物園前駅ランドリニューアルデザイン提案及び建築設計業務委託」における公募型プロポーザル方式による技術提案、BEST5、20181029
- ◆千葉雄介：中国唐山市における海洋観光拠点の提案—クルーズターミナルを中心とした複合リゾートの設計—、第 41 回 学生設計優秀作品展—建築・都市・環境—出展／20180514-17
- ◆高橋翔：中国哈爾濱市における水辺環境を活かした複合医療施設の設計、第 15 回 JIA 関東甲信支大学院修士設計展 2017 出展／20180307-09

## 受賞等

## 新聞掲載

- ◆佐藤信治+佐藤信治研究室：「増田の観光振興提案 日大生、合宿し具体策練る」、秋田魁新報社、2018.0916 朝刊、pp.19
- ◆蒲生良輔 (ほか 31 名 (佐藤信治研究室))：秋田県横手市増田町における蔵を保存利用する観光・交流を目的とした改修の提案、Vectorworks 教育シンポジウム 2018、2018 年度研究・調査支援奨学金授賞者、エーアンドエー株式会社、2018.8.22 日

## 学術講演会・優秀発表賞

- ◆佐々木秀人：第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会ポスター発表の部 優秀発表賞、日本大学理工学部、2019.0325
- ◆勝部秋高：第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会ポスター発表の部 優秀発表賞、日本大学理工学部、2019.0325

## 学外コンペ

- ◆黄起範：慶海の廻海—海洋ごみで成長する洋上都市の提案—、第 49 回毎日・DAS 学生デザイン賞 金の卵賞、201805
- ◆黄起範：慶海の廻海—海洋ごみで成長する洋上都市の提案—、第 30 回千葉県建築学生賞特別賞／201803
- ◆赤堀厚史：第 30 回千葉県建築学生賞奨励賞／201803
- ◆中村美月：積層する水族館、建築新人戦 BEST8、2018.9.22
- ◆山本壮一郎・渡辺真理恵・西村寿々美・佐々木秀人 (以上、佐藤信治研究室)：桜建デザインコンクール 2018 [流転の設計]、入選、2018.09.15
- ◆根本一希・佐々木秀人・金井亮祐・桜井南実・小林陽太・中村美月・松下将也 (以上、佐藤信治研究室)：歴史的空間再編コンペティション 2018 第七回「学生のまち・金沢」設計グランプリ、第五位、2018.11.18
- ◆山本壮一郎・根本一希・桜井南実 (以下小林直明研究室) 服部立・住吉文登：日本建築学会設計競技 2018 東海支部入選、日本建築学会、2018.9.
- ◆佐々木秀人・山本壮一郎・渡辺真理恵・西村寿々美 (以上、佐藤信治研究室)：歴史的空間再編コンペティション 2018 第七回「学生のまち・金沢」設計グランプリ、40 選、2018.11.

## 学外活動 (講演・講義等)

- ◆Shinji Sato: Keynote Speech, Proposal of composite plant factory by utilizing marine platform, SSFS Seminar on Floating Farms for A Sustainable Future, Society of FLOATING SOLUTIONS (Singapore), 2018.0824
- ◆佐藤信治 + 佐藤信治研究室：秋田県横手市増田町の未来について (佐藤信治研究室夏期研修合宿発表会)、秋田県横手市増田町地区、2018.0913

## 学外活動 (委員会活動等)

- ◆(株)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 学部課程 (建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会審査委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 修士課程 (建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会審査委員
- ◆(株)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会委員



## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆秋田産業サポータークラブ幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ地域連携観光ワーキング主査
- ◆出海洋環境創生機構運営委員会委員
- ◆秋田県能代市産業振興アドバイザー
- ◆秋田県登録文化財所有者の会幹事

### 海外出張・海外調査

- ◆佐藤信治：現代ホテルの設計プロポーザルにおけるプレゼンテーションのため、中華人民共和国・哈尔滨市、2018.01.16-18
- ◆佐藤信治：西安市終南山 Project の現地調査、中華人民共和国・西安市、北京市、2018.08.06-09
- ◆佐藤信治：SSFS Seminar on Floating Farms for A Sustainable Future.

- Society of FLOATING SOLUTIONS (Singapore) 基調講演、マレーシア 国立博物館調査、シンガポール・マレーシア・クアラルンプール市、2018.08.23-27
- ◆佐藤信治：桜門建築会主催研修旅行引率のため、台湾・台北市、台中市、新竹市ほか、2018.10.27-30

### 研究助成・受託研究

- ◆佐藤信治：受託共同研究、東京工業大学科学技術創成研究院 先進エネルギー国際研究センター (A.E.S.)、野村総合研究所、竹中工務店、戸田建設、マルハニチロ、横河電機他、浜名湖館山寺温泉地区スマートコミュニティプロジェクト

## 親水工学研究室

### 審査付論文

- ◆Jung Won-Jo, Akio Kuroyanagi, Ryo Sugahara, Tomoya Iizuka, Lee Myung-Kwon: A Study on the Risk Communication to Reduce Natural Disasters in Waterfront Area-Focusing on the Superstition of Saitama Prefecture in Japan-, Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities Vol.18 pp.387-407, 2018.4.
- ◆畔柳昭雄・増田光一・小林昭男・居駒知樹・恵藤浩朗・轟朝幸・小早川悟：海洋空間の有効利用のための超大型浮体式構造物に関する調査研究、日本大学理工学部理工研究ジャーナル 第142号 pp.19-28, 2018.6.
- ◆Ryo Sugahara・Akio Kuroyanagi: Research regarding the Conceptual Change Observed in the Sea City Concept, Proceedings of the ASME 2018 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2018, OMAE2018-77741, 2018.6.
- ◆Daisuke Dobashi・Akio Kuroyanagi・Ryo Sugahara: Survey Research on Legal System of Floating Residence and on Management of Water Utilization in the United States-Case Study on Seattle, Washington and Sausalito, California-, Proceedings of the ASME 2018 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2018, OMAE2018-77835, 2018.6.
- ◆Yoshiyuki Tajima・Akio Kuroyanagi・Ryo Sugahara: Study about Maintenance and Management on an Artificial Beach in Okinawa-Honto, Proceedings of the ASME 2018 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2018, OMAE2018-78282, 2018.6.
- ◆孫旭光・畔柳昭雄：中国の開港都市に見る歴史文化街区の保護に関する研究-山東省青島市のビール産業文化街区の現状-、沿岸域学会誌 Vol.31 No.2 pp.99-107, 2018.9.
- ◆飯塚智哉・畔柳昭雄・菅原遼：洪水常襲地域に見られる災害文化としての言い伝え-災害伝承に関する調査研究、都市計画論文集 Vol.53 No.2 pp.108-115, 2018.10.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆土橋大輔・畔柳昭雄・菅原遼：国内外の海上都市構想にみる海洋空間利用の動向に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31 論文番号 9-1, 2018.7.
- ◆菅原遼・畔柳昭雄：水上アクティビティと地域づくりの連携に関する研究-関東地域における SUP 団体の活動実態と課題-、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31 論文番号 9-3, 2018.7.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：水と緑の公私計画論に関する研究-その6 ニューヨーク市のブルックリン・ブリッジ・パーク-、日本建築学会大会 (東北) 学術講演会梗概集 pp.633-634, 2019.9.
- ◆田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：水上および水際に建つ建築物の形成過程および管理体制に関する研究-豊橋市の水上ビルに着目して-、日本建築学会大会 (東北) 学術講演会梗概集 pp.635-636, 2019.9.
- ◆飯塚智哉・菅原遼・畔柳昭雄：洪水常襲地域に見られる災害文化としての言い伝え-災害伝承に関する調査研究、第9回海洋建築及び沿岸域利用に関する日韓シンポジウム論文集 pp.33-40, 2018.9.
- ◆宗原咲来・菅原遼・畔柳昭雄：全国の川床の立地分布と成立要因に関する調査研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.721-722, 2018.12.
- ◆湯浅直之・菅原遼・畔柳昭雄：東京都における親水公園の整備動向に関する調

査研究-親水公園のパンフレットの頻出用語に着目して-、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.723-724, 2018.12.

- ◆滝口日向子・菅原遼・畔柳昭雄：日本橋地域における水辺開放に向けた取り組みの動向とその特徴に関する調査研究-日本橋川を拠点とした団体に着目して-、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.741-742, 2018.12.
- ◆田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：東京都臨海部における海上公園の整備・管理の動向とイベントによる空間利用に関する調査研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.671-672, 2018.12.
- ◆吉澤果南・菅原遼・畔柳昭雄：全国のエリアマネジメントネットワーク加盟団体にみる水辺の利活用実態に関する調査研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.773-774, 2018.12.
- ◆佐藤耕里・菅原遼・畔柳昭雄：水辺の公共空間を利用した飲食店の建設経緯および関連法規制に関する調査研究-東京都港区「THE HARBOUR SHIBAURA」を対象として-、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.757-756, 2018.12.
- ◆田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：東京都海上公園の整備にみられる水辺の環境改善効果に関する研究、第15回環境情報科学ポスターセッション、2018.12.
- ◆飯塚智哉・菅原遼・畔柳昭雄：中山間過疎地域にみる洪水被害者の生活再建プロセスとその特徴、第15回環境情報科学ポスターセッション、2018.12.
- ◆野中康太郎・飯塚智哉・菅原遼・畔柳昭雄：2016年台風10号における岩岸町の住民避難行動の実態、第15回環境情報科学ポスターセッション、2018.12.
- ◆宗原咲来・菅原遼・畔柳昭雄：川の魅力を引き立てる「川床」の特徴、第14回「川の日」ワークショップ関東大会、2019.3.

### 著書・執筆等

- ◆畔柳昭雄：市川尚紀・舟岡徳朗：消えゆくアジアの水上居住文化、鹿島出版会、2018.8.

### 作品等

- ◆畔柳昭雄・菅原遼：一瞬亭-茶事到来-、小松川千本桜まつり、2018.4.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：一瞬亭-茶事到来-、江戸川区環境フェア 2018, 2018.6.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、豊田市ミズペリリングフェスタ、2018.6.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：チクチク亭-竹の海の家-、平成30年度地域づくり応援事業 (佐渡市相川地区達者集落における住民参加プロジェクト)、2018.7.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、さどの島銀河芸術祭 2018, 2018.8.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、ざわりりパーフェスタ、2018.7.
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Dome、第4回桜理祭、2018.11.

### 受賞等

- ◆伊澤岬・畔柳昭雄・小林直明・轟朝幸・江守央・加藤敏三：ANA ていくおふ創刊40周年記念企画の懸賞論文 優秀賞、「3.11復興・オリンピック後の新たな社会システムの構築をめざして-水上機による地方創生ネットワーク構想-」、2018.3.
- ◆畔柳昭雄：韓国海洋大学校 功労賞、2018.9.
- ◆宗原咲来：平成30年度理工学部学術講演会「優秀発表賞」(ポスター発表)：

## 教員研究業績 研究室活動業績

全国の川床の立地分布と成立要因に関する調査研究)、2018.12.

- ◆宗原咲来:第14回「川の日」ワークショップ関東大会「優秀賞」(川の魅力を引き立てる「川床」の特徴)、2019.3.

### 学外活動(講演・講義等)

- ◆畔柳昭雄:日本人の「海離れ」が止まらない理由、読売新聞オンライン、2018.7.7.
- ◆畔柳昭雄:日本人の「海離れ」が止まらない理由、ヤフーニュース、2018.7.14.
- ◆畔柳昭雄:磯海水浴場 利用振るわず 水害、震災で海離れ、南日本新聞 地域総合、2018.7.16.
- ◆畔柳昭雄:竹野浜 全部、青い。憩い「海の家」じゃなく「浜茶屋」、神戸新聞 1面、2018.7.22.
- ◆畔柳昭雄:しなやか 竹で海の家・学生と住民 250本で製作、読売新聞 地域欄、2018.7.21.
- ◆畔柳昭雄:竹林を活用 爽やか海の家オープン-佐渡相川・達者 日大生設計、新潟日報、2018.7.26.
- ◆畔柳昭雄:海水浴場引いた人波 客足ピークの5分の1 相次ぐ閉鎖、東京新聞 特報 2018.8.2.
- ◆畔柳昭雄:住民と学生 竹で海の家、新潟日報、2018.8.9.
- ◆畔柳昭雄:畔柳ゼミが海の家-地元の竹使い制作費を圧縮、日大新聞、2018.8.20.
- ◆畔柳昭雄:日本大学理工学部海洋建築工学科の授業と親水工学、青島理工大学、2018.10.13
- ◆畔柳昭雄:湘南海岸、NHK プラタモリ資料提供、2018.10.13.
- ◆畔柳昭雄:Against Climate Change The Pole of Oceanic Architecture、2018 5th East Asia Architecture Forum、2018.10.
- ◆菅原遠:Research on Optimum Function and Utilization of Oceanic Architecture for Marine Space Use-Case Study on Kyushu Region、Japan、2018 5th East Asia Architecture Forum、2018.10.
- ◆菅原遠:カンボジア・トンレサップ湖における水上漁業集落の移動性を前提とした生活形態とそれに呼応した集落・建築形態の特徴、第2回水辺荘Lab.「漁業集落の生活形態から考える水辺の暮らしのあり方」、2018.10.
- ◆畔柳昭雄:加茂湖の可能性、新潟県佐渡島両津建設業組合講演、2018.10.
- ◆菅原遠:水上・水辺の露店収容建築物の建設過程と管理実態からみた水辺の公私計画の特徴、日本都市計画学会・2018年度全国大会第53回学術論文研究会・ワークショップ「都市環境における公私計画・マネジメントのあり方」、2018.11.
- ◆畔柳昭雄:基調講演 災害文化の教え、人間文化研究機構国文学研究資料館・茨城大学地球変動適応科学研究機関共同シンポジウム「水害対応の過去-現在-未来」、2019.2.

### 学外活動(委員会活動等)

#### 【特任教授・畔柳昭雄】

- ◆日本海洋工学会 理事
- ◆日本水産工学会 評議員/学協会等連絡担当委員
- ◆日本沿岸域学会 理事 副会長
- ◆日本建築学会・水辺の公私計画論検討小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 委員
- ◆千葉県魅力ある建設事業推進協議会 委員
- ◆水都東京・未来会議 議長

#### 【助教・菅原遠】

- ◆日本建築学会・水辺の公私計画論検討小委員会 委員
- ◆日本建築学会・津波建築システム小委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆水都東京・未来会議 委員
- ◆一般社団法人水辺荘 理事

### 海外出張・海外調査

- ◆畔柳昭雄・菅原遠:OMAE2019参加のため、スペイン・マドリッド/バルセロナ、2018.6.17-24.
- ◆菅原遠:オランダの水域利用にみられる地域連携の実態調査のため、オランダ・アムステルダム/ロッテルダム、2018.8.11-17.
- ◆畔柳昭雄・菅原遠:第8回日韓中デザインワークショップ参加のため、韓国・釜山、2018.8.19-27.
- ◆畔柳昭雄・菅原遠:2018 5th East Asia Architecture Forum参加のため、中国・青島、2018.10.13-16.
- ◆畔柳昭雄・菅原遠:韓国海洋大学校との研究交流会参加のため、韓国・釜山/ソウル、2019.3.4-6.

### 研究助成・受託研究

- ◆畔柳昭雄・菅原遠:科学研究費・基盤研究(C)、日本学術振興会、持続可能な都市空間のための公私計画・マネジメント論の構築及びデザイン手法
- ◆菅原遠・畔柳昭雄:研究奨励寄付金、日本都市計画学会、都市の水辺の公私計画論の構築に向けた実証的研究
- ◆菅原遠:科学研究費・若手研究(C)、日本学術振興会、水辺の市民開放に向けた空間利用と地域連携のあり方に関する研究
- ◆畔柳昭雄・菅原遠:受託研究、特定非営利活動法人佐渡芸能伝承機構、佐渡の水辺の価値およびポテンシャル向上のための実践活動

## 山本研究室

### 審査付論文

- ◆山本和清・宮崎渉・狩野悠介・城田大輔:漁業集落における要援護者の津波避難リスク軽減から見た高台移転に関する研究、日本福祉のまちづくり学会「福祉のまちづくり研究」Vol.21 No.1、2019.3

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆Yuusuke Kanou・Kazukiyo Yamamoto:Study on Inhabitant Awareness of Large-Scale Coastal Levees in Coastal Areas-Kamaishi City, Iwate Prefecture as a Case Study、2018 OCEANS-MTS/IEEE Kobe/Techno-Oceans (OTO'18) Conference、CD-ROM Proceedings of Coastal Zone Management Applications 1、May.2018
- ◆赤塚耕平・山本和清・宮崎渉・狩野悠介・鈴木一帆:夜間における津波避難対策に関する研究、日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会(in関西)概要集 CD-ROM I2A-2、2018.8.
- ◆鈴木一帆・山田剛史・山本和清・宮崎渉・狩野悠介:海水浴場における高齢者・障がい者に対する津波避難対策の実態に関する研究、日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会(in関西)概要集 CD-ROM I2A-3、2018.8.
- ◆阿久津研介・山本和清・宮崎渉・狩野悠介:津波災害時における外国人観光客の避難情報ニーズに関する調査研究-神奈川県鎌倉市を対象地として、日本建築学会大会(東北)学術講演会梗概集(No.10008) pp.15-16(海洋建築)、2018.9
- ◆福島功理・山本和清・宮崎渉・狩野悠介:プレジャーボート利用実態調査及び利用率向上に関する調査研究、日本建築学会大会(東北)学術講演会梗概

集(No.10015) pp.29-30(海洋建築)、2018.9

- ◆狩野悠介・山本和清・金子拓矢・宮崎渉:平常時における地域防災指導員のあり方に関する調査研究-地域防災指導員の養成を行っている宮城県・静岡県を対象地として、土木学会第58回土木計画学研究発表会 講演集 CD-ROM No.73、2018.11.
- ◆鈴木一帆・山本和清・宮崎渉:津波ハザードマップにおける津波避難経路記載に関する基礎的研究-千葉県銚南町と白子町を対象地として、土木学会第58回土木計画学研究発表会 講演集 CD-ROM No.197、2018.11.
- ◆狩野悠介・山本和清・宮崎渉:津波災害を想定した復興事前準備に関する基礎的研究-漁業集落の生活再建に着目した行動経済学的視点による分析、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.669-670、2018.12
- ◆荒木優佑・山本和清・宮崎渉:防災船着場の利用条件及び利用方法の統一化に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.761-762、2018.12
- ◆岡田航貴・山本和清・宮崎渉:津波ハザードマップから見る避難場所の安全性に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.771-772、2018.12
- ◆北山雅雄・山本和清・宮崎渉:南海トラフ地震における津波防災を対象とした復興事前準備に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.755-756、2018.12
- ◆坂口翔太・山本和清・宮崎渉:海水浴場のバリアフリーイベントの有効性と啓発に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.751-752、2018.12



## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆鈴木海人・山本和清・宮崎渉：ユニバーサルビーチ周辺施設のバリアフリー整備状況に関する調査研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.765-766、2018.12
- ◆鈴木康平・山本和清・宮崎渉：海水浴場における水難事故防止策に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.749-750、2018.12
- ◆友枝萌子・山本和清・宮崎渉：沿岸域の自主防災組織における女性参画の必要性とその在り方に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.767-768、2018.12
- ◆西島航太・山本和清・宮崎渉：海水浴場利用者の求めるユニバーサルビーチのあり方に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.763-764、2018.12
- ◆羽出啓人・山本和清・宮崎渉：漁業集落の復興まちづくりにおける合意形成に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.747-748、2018.12
- ◆藤城佑里花・山本和清・宮崎渉：若年層における新規漁業就業者の増加要因に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.743-744、2018.12
- ◆藤本力稀・山本和清・宮崎渉：地域活性化に寄与する海水浴場の通年利用の在り方に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.769-770、2018.12
- ◆森拓実・山本和清・宮崎渉：災害種別避難誘導システム及び災害種別のピク

トグラムに関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.753-754、2018.12

- ◆宮川寛・山本和清・宮崎渉：海水浴場における利用者数の増加要因に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.759-760、2018.12
- ◆古迫つぐみ・山本和清・宮崎渉：災害時要援護者名簿の回収率向上に関する研究 - 黒潮町における戸別津波避難カルテを比較対象として -、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.745-746、2018.12

### 受賞等

- ◆森拓実：優秀発表賞、災害種別避難誘導システム及び災害種別のピクトグラムに関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2019.1
- ◆宮川寛：優秀発表賞、海水浴場における利用者数の増加要因に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2019.1

### 学外活動（委員会活動等）

- ◆日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆（一社）みなと船橋振興協会 理事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPTメンバー

## 北嶋研究室

### 審査付論文

- ◆横澤輝・草川和広・北嶋圭二・中西三和：多数回繰返し載荷を受ける高層RC造建物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.40、No.2、pp.229-234、2018.7
- ◆山崎康雄・小山大樹・新保拓海・北嶋圭二：レンズ型ダンパーを取付けたRC造間柱の構造性能に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.40、No.2、pp.937-942、2018.7

### 口頭発表・ポスター発表

#### 《日本建築学会》

- ◆歌田航己・森本竜・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その1 制震補強設計法の概要および各層のダンパー量の算定）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.377-378、2018.9
- ◆森本竜・歌田航己・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その2 9階建て建物による補強設計ステディ）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.379-380、2018.9
- ◆山崎康雄・歌田航己・森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その3 耐力が弱い弱層を有する制震補強設計法の概要および各層のダンパー量の算定）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.381-382、2018.9
- ◆波田雅也・山本圭太・永野恭史・藤田勇汰・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの座屈拘束メカニズムに関する研究（その1 限界軸力 $N_c$ の誘導と検証実験の概要）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.735-736、2018.9
- ◆山本圭太・波田雅也・永野恭史・藤田勇汰・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの座屈拘束メカニズムに関する研究（その2 検証実験の結果）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.737-738、2018.9
- ◆高村皓輝・波田雅也・山本圭太・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレース構造建物の構造特性に関する研究（その4 折返しプレース構造建物の設計フローと試設計）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.739-740、2018.9
- ◆土田亮章・沖野貴久・竹内健一・波田雅也・関口聖也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その6 剛性偏心建物の立体骨組解析モデル）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.985-986、2018.9
- ◆沖野貴久・土田亮章・竹内健一・波田雅也・関口聖也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その7 解析結果と実験結果の比較および解析スタディ）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.987-988、2018.9

- ◆萩原悠太・関口聖也・沖野貴久・後藤詩乃・本村豪星・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その1 相似則の誘導と時刻歴応答解析による検証）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.989-990、2018.9
- ◆関口聖也・萩原悠太・沖野貴久・後藤詩乃・本村豪星・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その2 二方向振動台実験）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.991-992、2018.9
- ◆新保拓実・小山大樹・坂本駿仁・北嶋圭二・久保田雅春・山崎康雄・波田雅也・三塩洋一・山崎信宏：レンズダンパーを取り付けたRC造間柱の構造性能に関する実験的研究（その3 エネルギー吸収性能に関する検討）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.265-267、2018.9
- ◆坂本駿仁・小山大樹・新保拓実・北嶋圭二・名取祥一・山崎康雄・村井克綺・石渡康弘：レンズダンパーを取り付けたRC造間柱の構造性能に関する実験的研究（その4 解析モデルの概要および解析結果）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.268-269、2018.9
- ◆今津祥地郎・草川和広・横澤輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受けるRC造十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その1 実験概要）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.645-646、2018.9
- ◆草川和広・今津祥地郎・横澤輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受けるRC造十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.647-648、2018.9
- ◆横澤輝・今津祥地郎・草川和広・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受けるRC造十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その3 破壊過程と破壊性状）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.649-650、2018.9
- ◆川北章悟・渡邊瑞穂・柴田明奈・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定したRC造柱の挙動に関する実験的研究（その1 実験概要）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.1-2、2018.9
- ◆渡邊瑞穂・柴田明奈・川北章悟・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定したRC造柱の挙動に関する実験的研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.3-4、2018.9
- ◆柴田明奈・川北章悟・渡邊瑞穂・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定したRC造柱の挙動に関する実験的研究（その3 実験結果の検討）、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、pp.5-6、2018.9

#### 《理工学部学術講演会》

- ◆波田雅也・山本圭太・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの座屈拘束メカニズムに関する研究（その1 限界軸力 $N_c$ の誘導と検証実験の概要）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.47-48、2018.12

## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆山本圭太・波田雅也・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの座屈拘束メカニズムに関する研究（その2 検証実験の結果）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.49-50、2018.12
- ◆村井克綺・波田雅也・竹内健一・山本圭太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレース付き鉄骨造建物の構造特性に関する研究（その4 折返しプレース構造建物の設計フローと試設計）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.51-52、2018.12
- ◆関口聖也・土田亮章・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その6 剛性偏心建物の立体骨組み解析モデル）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.39-40、2018.12
- ◆土田亮章・関口聖也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その7 解析結果と実験結果の比較および解析スタディ）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.41-42、2018.12
- ◆矢部春恵・小松裕・後藤詩乃・本村豪星・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則に基づく滑り基礎構造建物の振動台実験（その1 相似則の誘導と時刻歴応答解析による検証）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.75-76、2018.12
- ◆小松裕・矢部春恵・後藤詩乃・本村豪星・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則に基づく滑り基礎構造建物の振動台実験（その2 二方向振動台実験）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.77-78、2018.12
- ◆新保拓実・小山大樹・坂本駿二・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：レンズダンパーを組み込んだ RC 造間柱の水平加力実験（その3 エネルギー吸収性能に関する検討）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.43-44、2018.12
- ◆坂本駿二・小山大樹・新保拓実・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：レンズダンパーを組み込んだ RC 造間柱の水平加力実験（その4 解析モデルの概要および解析結果）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.45-46、2018.12
- ◆巨健太郎・小山大樹・坂本駿二・北嶋圭二・中西三和・安達洋：RC 造間柱型ダンパーを設置した RC 造フレームに関する解析的研究（その1 ダンパー単体および RC 造間柱型ダンパーの解析スタディ）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.35-36、2018.12
- ◆小山大樹・巨健太郎・坂本駿二・北嶋圭二・中西三和・安達洋：RC 造間柱型ダンパーを設置した RC 造フレームに関する解析的研究（その2 3層1スパン RC 造フレームの解析スタディ）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.37-38、2018.12
- ◆今津祥地郎・新井義友・草川和広・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける RC 造スラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その1 実験概要）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.71-72、2018.12
- ◆草川和広・今津祥地郎・新井義友・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける RC 造スラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.73-74、2018.12
- ◆原口健太・森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：被災前後の固有周期の変化率と建物損傷度の関係に関する基礎的研究（その1 評価方法および解析概要）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.79-80、2018.12
- ◆森本竜・原口健太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：被災前後の固有周期の変化率と建物損傷度の関係に関する基礎的研究（その2 解析結果）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.81-82、2018.12
- ◆川北章悟・渡邊瑞穂・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造隅柱の挙動に関する実験的研究（その3 衝突速度と荷重効果）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.673-674、2018.12
- ◆渡邊瑞穂・川北章悟・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造隅柱の挙動に関する実験的研究（その4 ひずみ速度と最大荷重）、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.675-676、2018.12
- ◆萩原悠太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：水海域における固定式海洋構造物の地震応答性状に関する研究、平成30年度日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.677-678、2018.12

### 著書・執筆等

- ◆北嶋圭二ほか：「鉄筋コンクリート造建物の等価線形化法に基づく耐震性能評価型設計指針（案）・同解説」、日本建築学会、2019.2

### 受賞等

- ◆柴田明菜：2018年度日本建築学会大会（東北）学術講演会・海洋建築部門「若手優秀発表賞」：10003 津波漂流物の衝突を想定した RC 造柱の挙動に関する実験的研究（その3 実験結果の検討）、2018.11.21
- ◆新保拓実：平成30年度理工学部学術講演会「優秀発表賞」（口頭発表：構造・強度部会）：レンズダンパーを組み込んだ RC 造間柱の水平加力実験（その3 エネルギー吸収性能に関する検討）、2018.12
- ◆草川和広：平成30年度理工学部学術講演会「優秀発表賞」（口頭発表：構造・強度部会）：多数回繰返し載荷を受ける RC 造スラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果）、2018.12
- ◆萩原悠太：平成30年度理工学部学術講演会「優秀発表賞」（口頭発表：海洋建築部会）：水海域における固定式海洋構造物の地震応答性状に関する研究、2018.12

### 学外活動（講演・講師等）

- ◆北嶋圭二：Research on Earthquake Engineering at Kitajima Laboratory and Seismic Evaluation and Retrofit Method of RC Buildings in Japan. Seminar on Earthquake Engineering（地震工学セミナー）、PICE（フィリピン土木学会）、Cebu, Philippine（セブ、フィリピン）、2018.7.28（招待講演）

### 学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 構造委員会・鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会 既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会 既存評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会 応答スペクトルによる耐震性能評価法WG（委員）
- ◆日本建築学会 応答スペクトルによる耐震性能評価指針設計例作成WG（委員）
- ◆日本建築学会 海洋建築設計小委員会（委員）
- ◆日本建築学会 論文集委員会（委員）
- ◆日本建築学会 選挙管理委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部 講習会用構造テキスト委員会免震制振構造の設計執筆WG（委員）
- ◆日本コンクリート工学会 理事
- ◆日本コンクリート工学会 企画・評価委員会（委員）
- ◆日本コンクリート工学会 定款・規則改定委員会（委員）
- ◆日本コンクリート工学会 技術委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会 技術委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会 制振部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会 制振部材品質基準小委員会摩擦ダンパーWG（委員）
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会制振普及WG（委員）
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会基準対応WG（委員）
- ◆日本免震構造協会 修士論文審査委員会（委員長）
- ◆構造調査コンサルティング協会 構造物評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 耐震判定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査 耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査 高層評定委員会（委員）

### 海外出張・海外調査

- ◆北嶋圭二：フィリピン土木学会：地震工学セミナー（PICE：Seminar on Earthquake Engineering）、2018.7.27-31

### 研究助成・委託研究

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆委託研究：飛鳥建設株式会社ほか5社、凹面形状を有する板状鋼材ダンパーの性能評価に関する技術指導及び研究
- ◆委託研究：佐藤鉄工株式会社、シートジョイントの繰返し疲労に関する研究
- ◆委託研究：株式会社ケー・エフ・シー、あと施工せん断補強の効果に関する実験的研究



## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆研究奨励寄付金：株式会社東京ソイルリサーチ、既存集合住宅への制震補強工法適用の研究
- ◆研究奨励寄付金：西松建設株式会社、強震観測に基づく建物の振動特性評価と健全性判定支援システムの開発

- ◆研究奨励寄付金：エモーションズ株式会社、壁面取付金具の耐震実験研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、杭頭免震構法の既製杭適用に関する研究

## 近藤研究室

### 審査付論文

- ◆近藤典夫・田中裕基：近接した並列2円柱の衝突現象に関する流体力学解析、日本船舶海洋工学学会論文集、第28号、pp.225-234、2018.12.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆近藤典夫・横山侑弥：単一角柱のギャロッピング振動及び後流渦構造に関する数値計算、日本建築学会大会（東北）学術講演概要集、pp.287-288、2018.9.
- ◆近藤典夫・櫻井郁斗：円筒形タンク内の液面動揺に関する非線形数値解析、日本建築学会大会（東北）学術講演概要集、pp.283-284、2018.9.
- ◆近藤典夫・植田翔：間隔比の変化による直列2円柱まわりの流れの相違について、日本建築学会大会（東北）学術講演概要集、pp.285-286、2018.9.
- ◆近藤典夫・横山侑弥：入射角を有する正方形角柱の流体力学解析、日本機械学会、第31回計算力学講演会講演論文集、No.118、2018.11.
- ◆近藤典夫・呉翹楚：並列2角柱の流体力学特性に関する3次元数値解析、日本機械学会、第31回計算力学講演会講演論文集、No.109、2018.11.
- ◆近藤典夫・植田翔：くい違い配置した2円柱まわりの流れ構造について、日本機械学会、第31回計算力学講演会講演論文集、No.221、2018.11.
- ◆近藤典夫・櫻井郁斗：円筒形タンク内のスワローリングの非線形数値解析、日本機械学会、第31回計算力学講演会講演論文集、No.139、2018.11.
- ◆近藤典夫・横山侑弥：入射角を持つ正方形角柱のギャロッピング振動解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.123-124、2018.12

- ◆近藤典夫・呉翹楚：並列正方形2角柱の流体力学特性に関する3次元数値解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.125-126、2018.12
- ◆近藤典夫・櫻井郁斗：短周期地震動による円筒形タンク内の液面動揺解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.147-148、2018.12
- ◆近藤典夫・植田翔：直列2円柱まわりの流れの特性に関する数値計算、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.145-146、2018.12
- ◆近藤典夫・遠藤優太：円筒形タンク内の加振振幅を変化させた場合のスロッシング解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.195-196、2018.12
- ◆近藤典夫・岡田貴裕：円筒形シェルの線形解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.191-192、2018.12
- ◆近藤典夫・山田涼介：二次元円柱構造物の渦励振解析、第62回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.193-194、2018.12

### 学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 理事
- ◆日本建築学会 関東支部長
- ◆日本建築学会 シェル空間構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 応用力学運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 空間構造における連成・接触問題小委員会 幹事

## 福井研究室

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆朝倉弘貴・姜建設・矢田光輝・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるRC骨組の地震後の曲げ性状に関する解析的研究（その1 解析概要）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.729-730、2018.9.
- ◆矢田光輝・姜建設・朝倉弘貴・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるRC骨組の地震後の曲げ性状に関する解析的研究（その2 解析結果および考察）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.731-732、2018.9.
- ◆姜建設・朝倉弘貴・矢田光輝・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるRC骨組の地震後の曲げ性状に関する解析的研究（その3 曲げモーメントおよびたわみの推定）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.733-734、2018.9.
- ◆榎本憲嗣・内田龍一郎・福井剛・浜原正行：梁の鉛直荷重が正負繰返し水平荷重を受けるPC骨組の力学的挙動に与える影響（その1 解析概要と骨組履歴性状）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.735-736、2018.9.
- ◆内田龍一郎・榎本憲嗣・福井剛・浜原正行：梁の鉛直荷重が正負繰返し水平荷重を受けるPC骨組の力学的挙動に与える影響（その2 残留変形時の梁の挙動）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.737-738、2018.9.
- ◆齊田健志・金庭史弥・石井誠士・福井剛・浜原正行：主筋の降伏がPC梁のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究（その1 実験計画）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.741-742、2018.9.
- ◆金庭史弥・齊田健志・石井誠士・福井剛・浜原正行：主筋の降伏がPC梁のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.743-744、2018.9.
- ◆石井誠士・齊田健志・金庭史弥・福井剛・浜原正行：主筋の降伏がPC梁のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究（その3 せん断耐力に対する検討）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.745-746、2018.9.
- ◆森田明・岩見遼平・佐藤直人・福井剛・染谷俊章：集成材にプレストレスを

導入した大スパン梁部材の開発（その1 圧着小口面の摩擦係数に関する実験）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.799-800、2018.9.

- ◆岩見遼平・森田明・佐藤直人・福井剛・染谷俊章：集成材にプレストレスを導入した大スパン梁部材の開発（その2 集成材の支圧耐力実験）、日本建築学会大会（東北）学術講演会梗概集 pp.801-802、2018.9.
- ◆岩見遼平・森田明・佐藤直人・福井剛：プレストレスを導入した集成材梁の提案および実大曲げ実験報告、第27回プレストレスコンクリートの発展に関するシンポジウム、2018.11.
- ◆齊田健志・石井誠士・榎本憲嗣・福井剛・浜原正行：主筋とPC鋼材の付着がPC梁のせん断抵抗機構に及ぼす影響に関する実験的研究 その1 実験概要、第62回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.53-54、2018.12.
- ◆榎本憲嗣・石井誠士・齊田健志・福井剛・浜原正行：主筋とPC鋼材の付着がPC梁のせん断抵抗機構に及ぼす影響に関する実験的研究 その2 実験結果、第62回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.55-56、2018.12.
- ◆石井誠士・齊田健志・榎本憲嗣・福井剛・浜原正行：主筋とPC鋼材の付着がPC梁のせん断抵抗機構に及ぼす影響に関する実験的研究 その3 せん断耐力に対する検討、第62回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.57-58、2018.12.
- ◆岡田和俊・朝倉弘貴・福井剛・浜原正行：梁に鉛直荷重と地震荷重を受けるPC骨組の曲げ挙動に関する解析的研究 その1 解析概要と履歴性状、第62回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.59-60、2018.12.
- ◆朝倉弘貴・岡田和俊・福井剛・浜原正行：梁に鉛直荷重と地震荷重を受けるPC骨組の曲げ挙動に関する解析的研究 その2 残留変形時の梁の挙動、第62回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.61-62、2018.12.

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 著書・執筆等

- ◆福井剛：【講座】プレストレストコンクリート（PC）造建物設計入門、日本コンクリート工学会、2019年2月

### 学外活動（講演・講義等）

- ◆福井剛・柴前田秀樹・森田明・清水隆・鱈沢曜：日本建築学会関東支部既刊図書講習会「プレストレストコンクリート構造の設計」2018年9月13日

### 学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規準指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工WG 委員
- ◆日本建築学会・2016年熊本地震プレストレストコンクリート建物被害調査WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 役員 学術幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 研究運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 優秀研究報告集・若手優秀研究報告賞選考部会 部会長

- ◆日本建築学会・関東支部 地震災害調査運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 大会委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定WG 主査
- ◆プレストレスト工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレスト工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレスト工学会・会誌編集委員会 論文審査小委員会 委員
- ◆日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員
- ◆建築研究振興協会・「建築における緊急管理の手引き」検討・評価委員会 委員長

### 研究助成・受託研究

- ◆福井剛：研究奨励寄付金、オリエンタル白石株式会社
- ◆福井剛：受託研究、株式会社建研

## 居駒・恵藤・相田研究室

### 審査付論文

- ◆Koichi Masuda・Tomoki Ikoma・Daichi Murata・Hiroaki Eto・Akihiro Matsuoka・Yasuhiro Aida and Masaharu Ikegami：“A Fundamental Study on Collision of a Tsunami Drifting Objects Against Structures Using MPS Method and FEM,” Proceedings of ASME 2018 37th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2018), OMAE2018-77874, doi:10.1115/OMAE2018-77874, 2018.6.
- ◆Hiroaki Eto・Yoh Shikita・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda and Hiroaki Kihara：“A Fundamental Study on Motion Characteristics and Cargo Handling Efficiency of the Large-Scale Floating Coal Transshipment Station,” Proceedings of ASME 2018 37th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2018), OMAE2018-77727, doi:10.1115/OMAE2018-77727, 2018.6.
- ◆Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto・Koichi Masuda and Atsuhiko Oguchi：“A Towing Test of a Floating Type VAMT With Cycloidal Pitch-Controlled Blades,” Proceedings of ASME 2018 37th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2018), OMAE2018-77443, doi:10.1115/OMAE2018-77443, 2018.6.
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Hiroaki Eto and Shogo Shibuya：“Basic Characteristics of the Primary Conversion of an OWC Type WEC Installed on a Wave Dissipating Double-Caisson,” Proceedings of ASME 2018 37th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2018), OMAE2018-77020, doi:10.1115/OMAE2018-77020, 2018.6.
- ◆Masaaki Aoki・Sharath Srinivasamurthy・Kazuhiro Iijima・Naoyuki Hara・Tomoki Ikoma and Yasunori Nihei：“Experimental Investigation of Negative Damping Effects for a TLP Type Offshore Wind Turbine,” Proceedings of ASME 2018 37th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2018), OMAE2018-77256, doi:10.1115/OMAE2018-77256, 2018.6.
- ◆恵藤浩朗・敷田曜・居駒知樹・増田光一・木原寛明：大型石炭貯蔵浮体システムの応答特性と荷役稼働率に関する基礎的研究、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.74、No.2、pp.964-969、2018.6
- ◆Kanade Ohmura・Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto and Koichi Masuda：“PERFORMANCE AND CHARACTERISTICS OF PITCH-CONTROLLABLE VAMT,” Grand Renewable Energy 2018 Proceedings (GRE2018), Paper No. O-Oe-1-11, 2018.7.
- ◆Kazuyoshi Kihara・Yasushi Hosokawa・Koichi Masuda and Tomoki Ikoma：“A practical estimation method of PTO and a sea test of

- a PW-OWC type Wec using a wave dissipating double caisson,” Advances in Renewable Energies Offshore, RENEW2018, C. Guedes Soares Editor, CRC PRESS, pp.531-538, 2018.10.
- ◆Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto and Koichi Masuda：“Performance of an OWC type WEC replaced from a wave dissipating double-caisson,” Advances in Renewable Energies Offshore, RENEW2018, C. Guedes Soares Editor, CRC PRESS, pp.589-595, 2018.10.
- ◆相田康洋・平山克也：CADMAS-SURF/3D を拡張した係留船舶動揺解析手法の構築、土木学会論文集 B2（海岸工学）、Vol. 74 No.2、2018、pp L13-L18,2018.11
- ◆Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Hiroaki Eto and Shogo Shibuya：“BASIC CHARACTERISTICS OF THE PRIMARY CONVERSION OF AN OWC TYPE WEC INSTALLED ON A WAVE DISSIPATING DOUBLE-CAISSON,” Journal of Offshore Mechanics and Arctic Engineering, ASME, doi:10.1115/1.4042943、採択済・Accepted Manuscript オンライン掲載済、2019.2.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆Tomoki Ikoma・Yuka Watanabe・Hiroaki Eto・Koichi Masuda・Kanade Ohmura：PTO and Elastic Motion of VLFs Installed with OWC Type WECs: OCEANS'18 MTS/ IEEE Kobe/ Techno-Ocean2018、171202-007、2018.5
- ◆Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto・Koichi Masuda・Chang-Kyu Rheem：Turbine Performance of Pitch-Controlled VAMTs from Flume Tests and a Sea Test: OCEANS'18 MTS/ IEEE Kobe/ Techno-Ocean2018、171202-008、2018.5
- ◆中村充・居駒知樹・恵藤浩朗・増田光一：垂直軸風車を搭載したムーンブルを有したボンツーン浮体の波浪中動揺の基本特性、日本船舶海洋工学会講演会論文集、第26号、2018S-GS12-1、2018.5
- ◆海保紘大・恵藤浩朗・宮本卓次郎・居駒知樹・増田光一・相田康洋・敷田曜：深海を活用した水素生産・貯蔵システムのコンセプトと経済性に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2018年度講演概要集 No.31、2-1、2018.7
- ◆敷田曜・恵藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一・木原寛明：大型石炭貯蔵浮体システムの長周期動揺を考慮した稼働率に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会、2018年度講演概要集 No.31、8-2、2018.7
- ◆居駒知樹・町田香穂・恵藤浩朗・増田光一・木原一禎：二重消波ケーソンの OWC 型波力発電装置としての可能性について、日本沿岸域学会研究討論会、2018年度講演概要集 No.31、2-2、2018.7
- ◆巢河香里・居駒知樹・恵藤浩朗・増田光一：PW-OWC を有する浮体の空気室負荷の違いが一時変換特性に及ぼす影響、日本沿岸域学会研究討論会、2018年度講演概要集 No.31、2-3、2018.7



教員研究業績  
研究室活動業績

- ◆飯塚功二・惠藤浩朗・居駒知樹・増田光一・相田康洋：大型石炭貯蔵浮体の局部応力特性に関する基礎的研究、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-044、2018.8
- ◆古川翔・相田康洋・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・石橋榮稔：観光地における新規津波避難施設の配置計画に関する基礎的研究、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-043、2018.8
- ◆増田光一・金子大介・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・池上正春・新井洋一・福永雄太：東京湾における作業台船の津波被害の可能性とその低減方法に関する基礎的研究、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-049、2018.8
- ◆村田大地・相田康洋・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：MPS法を用いた津波漂流物による衝突荷重の算定に関する基礎的研究、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-042、2018.8
- ◆居駒知樹・岩松幸花・二瓶泰範・惠藤浩朗・増田光一・志柿友基：垂直軸水車とその回転が浮体の波浪中応答特性に与える影響に関する基礎的研究、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-047、2018.8
- ◆居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・巢河香里：浮体式PW-OWCの一次変換性能に空気室負荷が及ぼす影響、第27回海洋工学シンポジウム、OES27-076、2018.8
- ◆村田大地・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・相田康洋：被衝突物による流体の攪乱を考慮した津波漂流物の衝突に関する基礎的研究、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、10004、pp.7-8、2018.9
- ◆古川翔・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋：観光地における海浜からの津波避難に関する基礎的研究、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、10009、pp.17-18、2018.9
- ◆木原寛明・敷田曜・惠藤浩朗・居駒知樹・増田光一・相田康洋：大型石炭貯蔵浮体システムの荷役稼働率に関する基礎的研究、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、10010、pp.19-20、2018.9
- ◆飯塚功二・惠藤浩朗・居駒知樹・増田光一・相田康洋：大型石炭貯蔵浮体の構造強度に関する基礎的研究、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、10011、pp.21-22、2018.9
- ◆中村充・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：ムーンプールを有するポンツーン浮体に搭載された垂直軸風車の回転が係留索張力に与える影響について、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、10012、pp.23-24、2018.9
- ◆居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・相田康洋・小川拓麻：ULFPSOの内部水面の動揺に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、10025、pp.49-50、2018.9
- ◆増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋・宮下奈々恵：遠隔離島における船舶の非接岸係留システムに関する基礎的研究、日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集、10026、pp.51-52、2018.9
- ◆Hiroaki Eto・Yoh Shikita・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda and Hiroaki Kihara：A Fundamental Study on Motion Characteristics and Cargo Handling Efficiency of the Large-Scale Floating Coal Transshipment Station, 9th Japan/Korea Symposium on Oceanic Architecture and Coastal Zone Utilization, 2018.9
- ◆Daichi Murata・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Hiroaki Eto・Yasuhiro Aida：Fundamental Study on Collision of Tsunami Drifting Object Considering Fluid Disturbance around a Collided Structure, 9th Japan/Korea Symposium on Oceanic Architecture and Coastal Zone Utilization, 2018.9
- ◆Tomoki Ikoma：Overview of Curriculum for Education on Development of Ocean Resource and Energies and Related Studies, 9th Japan/Korea Symposium on Oceanic Architecture and Coastal Zone Utilization, 2018.9
- ◆木原禎之・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：浮体式PW-OWC型波力発電装置の空気室特性が一次変換係数に及ぼす影響、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、2018.11
- ◆木原禎之・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：PW-OWC型波力発電装置の空気室体積が一次変換係数に及ぼす影響、第62回日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会、J-9、pp.679-680、2018.12
- ◆福永雄太・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋・増田光一・細谷昂：港湾内における津波による係留船舶の漂流被害予測および係留索張力特性に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会、J-10、pp.681-682、2018.12

- ◆村田大地・居駒知樹・相田康洋・増田光一：MPS弾性体モデルを用いた津波の流体衝撃力による構造物の弾性応答に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会、J-11、pp.683-684、2018.12
- ◆木原寛明・居駒知樹・増田光一・相田康洋・惠藤浩朗・大野拓巳：離島港湾における非接岸係留された船舶の不規則波中の動揺特性に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会、J-12、pp.685-686、2018.12
- ◆下本瀬夏・北島佑一・惠藤浩朗・登川幸生・山本守和・居駒智樹・相田康洋・増田光一：GISによる東京都の大規模地震における負傷者数の分布と医療支援浮体の適地に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会、J-57、pp.775-776、2018.12

受賞等

- ◆居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一 他：日本沿岸域学会論文賞、二重消波ケーソンの振動水柱型波力発電装置としての性能に関する研究、2018.7.
- ◆増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：日本沿岸域学会出版文化賞、水波工学の基礎、2018.7.

学外活動（講演・講義等）

- ◆居駒知樹：A Study on OWC Type Wave Energy Converters, Special lecture at University of Strathclyde (Glasgow, Scotland)、2018.10.4.
- ◆居駒知樹：海の利用と海洋エネルギー開発、第53回海洋教育フォーラム（千葉）、2019.3.2.

学外活動（委員会活動等）

<居駒知樹>

- ◆東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境専攻 非常勤講師
- ◆東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆National Institute of Technology Karnataka, Surathkal India. "Physical Model Studies on Wave Propagation along Approach Channel and its Effects on Harbour Tranquility", 博士論文審査委員
- ◆Instituto Superior Tecnico (IST, University of Lisbon). "Hydrodynamic Analysis of Oscillating Water Column Wave Energy Converters", 博士論文審査委員
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆日本海洋工学学会 理事、運営委員（日本沿岸域学会担当）
- ◆日本建築学会 海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆日本建築学会 海洋建築委員会 海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築委員会 海洋建築計画小委員会 委員
- ◆日本建築学会 奨励賞選考委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会 研究企画委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会 海洋工学研究部会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学学会 海洋工学研究会 委員長
- ◆日本船舶海洋工学学会 海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会 波力発電における水槽試験での模型縮尺影響研究委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会 海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会 海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆日本沿岸域学会 企画運営委員会 副委員長
- ◆土木学会会員
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆第27回海洋工学シンポジウム（日本船舶海洋工学学会・日本海洋工学学会）実行委員
- ◆PACON International, Board member（理事）
- ◆OMAE 2019 & 2019 Symposium Organizer of Ocean Space Utilization
- ◆OMAE 2019 Topic Co-organizer of Wave energy converters at Prof. Takeshi Kinoshita Honoring Symposium
- ◆RENEW 2018 International Conference International Scientific Committee Member
- ◆Oceans and Techno-Ocean (OTO) 2018 (IEEE OES & Techno-Ocean Network) Executive Committee member, Technical Program Committee Co-Chairs

## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆ Grand Renewable Energy 2018 (国際会議) 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆ IEC TC114 Part 103 - Guidelines for WEC testing、国際委員

### < 惠藤浩朗 >

- ◆ 東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築計画小委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆ 日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員

### —— 海外出張・海外調査 ——

- ◆ 居駒知樹：国際会議 OMAE2018 (OOAE, ASME 主催) での研究発表と OSU オーガナイザーとして、スペイン・マドリド、2018.6.16-24.
- ◆ 居駒知樹：海洋エネルギー動向調査、イギリス・グラスゴー、2018.10.3-7.

- ◆ 居駒知樹：国際会議 RENEW2018 での研究発表・司会のため (10月11日：リスボン大学 IST での博士論文審査委員会出席のため)、ポルトガル・リスボン、2018.10.7-13.
- ◆ 居駒知樹：水上飛行機利用および関連施設調査、米国・アンカレッジおよびカナダ・バンクーバー等、2019.3.15-22.
- ◆ 惠藤浩朗：長期海外派遣研究員 (ハワイ大学 自然エネルギー研究所 客員研究員)、アメリカ・ホノルル、2018.4.21-2019.3.21
- ◆ 惠藤浩朗：OMA2018 講演、スペイン・マドリド、2018.6.16-23
- ◆ 惠藤浩朗：ハワイ州立自然エネルギー研究所 (NELHA) 視察、アメリカ・コナ、2018.10.29-30

### —— 研究助成・受託研究 ——

- ◆ 居駒知樹：科学研究費・基盤研究 (B)、振動水柱型波力発電装置の空気室容積や形状の違いによる非線形影響と縮尺影響の究明
- ◆ 居駒知樹：研究奨励寄付金 (研究助成金)、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所、定置網や養殖海域等における小規模波力発電浮体システムの係留方法と発電性能の最適化および電力利用に関する基礎研究

## 大塚研究室

### —— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆ 山口兼右・大塚文和・川西利昌：東京湾内湾沖合部における二枚貝初期稚貝について、日本沿岸域学会研究討論会 2018 講演概要集 No.31、2018.7
- ◆ 橋本宗侍・大塚文和・川西利昌：東京湾セシウムプロジェクトの展開について一内湾における放射性セシウムの堆積分布とその動態、第 19 回東京湾シンポジウム、2018.10
- ◆ 山口兼右・大塚文和・川西利昌：東京湾におけるアサリネットワークの解明に向けて一沖合部での二枚貝初期稚貝の沈降着底、第 19 回東京湾シンポジウム、2018.10
- ◆ 橋本宗侍・大塚文和・川西利昌：真間川河口前海域における放射性物質の堆積分布に関する基礎的研究、第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2018.12
- ◆ 山口兼右・大塚文和・川西利昌：東京湾内湾沖合部における二枚貝初期稚貝の着底について、第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2018.12
- ◆ 小原聖人・大塚文和・川西利昌：江戸川および荒川から東京湾に流入する放射性物質量の推定について一懸濁態および溶解態 Cs の流入量の推定を目指して一、第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2018.12

- ◆ 佐々木凌太郎・大塚文和・川西利昌：東京湾を対象にした生態系ネットワークの成立要素に関する基礎的研究、第 62 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2018.12

### —— 学外活動 (委員会活動等) ——

- ◆ 日本沿岸域学会・論文委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築計画小委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・論文編集委員会 (委員)

### —— 海外出張・海外調査 ——

- ◆ 大塚文和：放射能汚染地域の現地踏査、イギリス・アメリカ、2018.11.19-30

### —— 研究助成・受託研究 ——

- ◆ 科学研究費助成基金助成金、研究課題「東京湾奥部における放射性物質の実態およびその長期的予測に関する研究」(基盤研究 C)
- ◆ 理工学部プロジェクト研究助成金、研究課題「東京湾における放射性物質の堆積分布推定に関する研究」

## 岡本研究室

### —— 審査付論文 ——

- ◆ OKAMOTO Kyoichi・KOMORIYA Tomoe・TOYAMA Takeshi・HIRANO Hirotsuke・GARCIA, Teodinis, BACCAY, Melito, MACASILHIG Marjun and FORTALEZA Benedicto, PURIFICATION EXPERIMENTS ON THE PASIG RIVER, PHILIPPINES USING A CIRCULATION-TYPE PURIFICATION SYSTEM, 4th Int. Conf. on Science, Engineering & Environment (SEE), Nagoya, Japan, Nov.12-14, 2018
- ◆ OKAMOTO Kyoichi・KOMORIYA Tomoe・TOYAMA Takeshi・HIRANO Hirotsuke・GARCIA, Teodinis, BACCAY, Melito, MACASILHIG Marjun and FORTALEZA Benedicto, PERFORMANCE OF A CIRCULATION TYPE PURIFICATION SYSTEM DURING THE TREATMENT OF SLUDGE FROM MANILA BAY AND TWO PORTS IN JAPAN, International Journal of GEOMATE, July 2019, Vol.17, Issue 59, pp.51-56, Geotechnique, Construction Materials and Environment

### —— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆ OKAMOTO Kyoichi・KOMORIYA Tomoe・TOYAMA Takeshi・HIRANO Hirotsuke・GARCIA, Teodinis, BACCAY, Melito,

MACASILHIG Marjun and FORTALEZA Benedicto, PURIFICATION EXPERIMENTS ON THE PASIG RIVER, PHILIPPINES USING A CIRCULATION-TYPE PURIFICATION SYSTEM, 4th Int. Conf. on Science, Engineering & Environment (SEE), Nagoya, Japan, Nov.12-14, 2018

- ◆ OKAMOTO Kyoichi・KOMORIYA Tomoe・TOYAMA Takeshi・HIRANO Hirotsuke・GARCIA, Teodinis, BACCAY, Melito, MACASILHIG Marjun and FORTALEZA Benedicto, PERFORMANCE OF A CIRCULATION TYPE PURIFICATION SYSTEM DURING THE TREATMENT OF SLUDGE FROM MANILA BAY AND TWO PORTS IN JAPAN, 4th Int. Conf. on Science, Engineering & Environment (SEE), Nagoya, Japan, Nov.12-14, 2018
- ◆ 野川大輔・岡本強一：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去一最適凝集剤添加量の検討一、日韓シンポジウム 2018
- ◆ 立石翔太郎・野川大輔・岡本強一：循環型浄化システムにおいてバブル発生水槽をホースに変更した浄化実験一ホースの長さを変えた場合の影響一、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2018.12
- ◆ 上野橋平・立石翔太郎・野川大輔・中村隆浩・岡本強一：循環型浄化システムにおける最適な活性剤投入時刻の検討、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2018.12



## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆許亜豪・李傳文・野川大輔・川邊謙介・岡本強一・北澤大輔：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 - 交番電圧を用いた 2 電極及び 3 電極の場合 -、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2018.12
- ◆野川大輔・小林和貴・岡本強一・北澤大輔：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 - 交番電圧による 4 電極の場合 -、第 62 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、2018.12

### 受賞等

- ◆岡本強一：Best Paper Award, 論文 "PURIFICATION EXPERIMENTS ON THE PASIG RIVER, PHILIPPINES USING A CIRCULATION-TYPE PURIFICATION SYSTEM" に関して、国際科学技術環境会議 (SEE2018)、2018.11.14

### 学外活動 (委員会活動等)

- ◆(株)日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 (委員)

- ◆海の森づくり推進協会 (理事)
- ◆東京大学・生産技術研究所 (協力研究員)

### 海外出張・海外調査

- ◆岡本強一：フィリピン工科大学 (TUP) との共同の研究課題「バツグリバーにおける循環型浄化システムを用いた浄化実験」において、採泥採水を行う為、フィリピン、マニラ、2018.6.24-27

### 研究助成・受託研究

- ◆岡本強一：科学技術研究費、基盤研究 (C)、「堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの減容化を考慮した効率的除去システムの開発」、(17K06969)
- ◆岡本強一：研究奨励寄付金、阿部産業、循環型浄化システムの連続使用に関する性能評価

## 小林・野志研究室

### 審査付論文

- ◆小林昭男・宇多高明・宮田隆平・野志保仁：Nha Trang 北部の Hon Chong Beach の砂浜消失と養浜による砂浜復元、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、第 74 巻、No.2、L683-L688、2018.9.
- ◆渡部末樹久・小林昭男・宇多高明・野志保仁：養老川水系高滝ダム堆砂の養浜材としての利用の可能性検討、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、第 74 巻、No.2、L282-L287、2018.9.
- ◆野志保仁・目野玄也・宇多高明・小林昭男：九十九里浜南端に位置する一宮海岸における養浜とその効果検証、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、第 74 巻、No.2、L288-L293、2018.9.
- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・勝木厚成・野志保仁：飛砂による堆砂垣周辺の地形変化とセルオートマトン法によるその予測、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、第 74 巻、No.2、L749-L754、2018.9.
- ◆橋本佳樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：波の作用下での同一粒径の天然礫に対する人工礫と貝殻片の挙動の比較、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、第 74 巻、No.2、L703-L708、2018.11.
- ◆Takuya Yokota・Akio Kobayashi・Takaaki Uda・Masumi Serizawa, Atunari Katsuki・Yasuhito Noshi：MODEL FOR PREDICTING FORMATION OF BLOWOUT ON COASTAL SAND DUNE USING CELLULAR AUTOMATON METHOD, Coastal Engineering 2018, Vol. 36, papers 40, 2018.7.
- ◆Yasuhito Noshi, Takaaki Uda, Akio Kobayashi：REASON OF FIXATION OF MOUTH OF A SMALL RIVER BEHIND NATURAL REEF, Coastal Engineering 2018, Vol. 36, papers 56, 2018.7.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆横田拓也・宇多高明・小林昭男・野志保仁：富津新港の防波堤隅角部における砂浜の形成、日本沿岸域学会研究討論会、CD、2018.7.
- ◆横田拓也・宇多高明・小林昭男・野志保仁：神奈川県七里ヶ浜の前浜での砂鉄堆積とその起源、日本沿岸域学会研究討論会、CD、2018.7.
- ◆宇多高明・大谷靖郎・野志保仁・大木康弘：長崎県橘湾に面した千々石海岸の侵食、日本沿岸域学会研究討論会、CD、2018.7

### 著書・執筆等

- ◆小林昭男：沿岸域工学の基礎、技報堂出版、2019.1.
- ◆小林昭男：海岸侵食対策の進展、日本沿岸域学会誌、第 31 巻、No.2、pp.66-68、2018.9.

- ◆小林昭男：海岸の侵食対策と修復、建設工業調査会「ベース設計資料土木編」、第 176 巻、pp.21-23、2018.3.

### 学外活動 (講演・講義等)

- ◆小林昭男：Coastal Engineering, Seminar on Coastal and Earthquake Engineering conducted by Philippine Institute of Civil Engineers - Cebu Chapter, 2018.7.28.
- ◆小林昭男：Investigation on Causes of beach changes on Saru-shima island, HCM City University of Natural Resources and Environment - Nihon University Joint Conference on Estuarine, Coastal and Shelf Studies 2018 in Ho Chi Minh City, 2018.10.31.
- ◆小林昭男：Disappearance of sandy beach on Hon Chong Beach in Nha Trang and its recovery by Nourishment, Seminar on Coastal Engineering conducted by Institute of Oceanography, Vietnam Academy in Nha Trang, 2018.11.2.

### 学外活動 (委員会活動等)

- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会 (委員)
- ◆小林昭男：市原市建築審査会 (委員)
- ◆小林昭男：勝浦市海づくり会議 (副座長)
- ◆小林昭男：日本海洋工学会 (理事・運営委員会委員)
- ◆小林昭男：土木学会海洋開発論文集査読小委員会 (委員)
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会 (委員)
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会 (幹事)
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発論文集査読小委員会 (委員)

### 海外出張・海外調査

- ◆小林昭男：フィリピン土木学会主催の海岸・地震工学セミナーにおける講演のため、フィリピン・セブ、2018.7.27-31.
- ◆小林昭男：海岸利用に関するホーチミン天然資源環境大学での講演およびベトナム海洋研究所での講演と海岸踏査のため、ホーチミンおよびニャチャン・ベトナム、2018.10.30-11.4.

### 研究助成・受託研究

- ◆小林昭男：研究奨励寄付金、公益財団法人戸田育英財団、東京湾最大の自然島の猿島における近年の海浜変形に関する調査研究

平成  
30  
年度

## 卒業生の就職状況

学科就職担当 福井剛・山本和清・菅原遼

## 1. 就職状況の全体像

昨年度（2018年12月31日現在）の就職希望者の就職内定率は学部、大学院ともに100%となりました（表1）。オリンピック以降も企業はバックオーダーを抱えており、建設業界の慢性的な人手不足も手伝って、今後もしばらくはこの傾向が続くような雰囲気です。

就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートを行っています。2017年度から建築学科と共催の就活イベントも開始して、一段とパワーアップしました（表2）。「カイケンJOBスクール（写真1）」は海建OBOGによる業界説明会です。海建OBOGが実際に活躍している幅広い分野の企業30社のお話を聞くことができます。建築だけではなく、土木、海洋、エンジニアリング、コンサルタントなど、海建らしい企業が多数参加します。視野を大きく広げてください。「OBOGと学生との懇談会（写真2）」は、建築関連企業に特化した就活イベントです。2日間で大手ゼネコンを含む80社の企業と巡り合うチャンスです。企業側の説明者は両学科のOBOGです。ゼネコンに進む学生の8割以上がこのイベント参加企業へ就職しています。さらに個別企業の詳しい説明を聞くことができるのが「学内説明会・面談会」です。企業での面接対策に極めて有効です。それぞれのイベントを有効活用し、OBOGネットワークを通して希望する就職内定を勝ち取りましょう。

## 2. 業種別就職内定先

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く73名（54%）を占めているほか、設計事務所・コンサルタント20名（15%）、住宅・不動産12名（9%）であり、全体の78%を占めています。また、土木寄りの海洋・コンサルタント13名（10%）への就職先がみられるのも本学科の特徴です。2019年3月卒の主要内定先企業（表3）をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることがわかります。理工学部建築学科と比べても遜色ありません。自信を持って就職活動に挑んでください。

## 3. 本年度の就職活動に向けて

日本経済団体連合会（経団連）が2018年10月に発表したように、2021年卒より就活協定が廃止されることとなりました。その後の関係省庁の会合により、2021年卒までは現行のスケジュールを変えない、つまり3月会社説明会開始、6月企業内選考開始を遵守することが発表されました。しかし、企業の動きは年々早まっており、昨年よりやや前倒し感が感じられました。世間全般の動きも大切ですが、建設業界特有の動きに注視する必要があります。一つ確実なことは昨年よりも遅くなることは無いということです。

一部の会社は早期人材確保に向けた動きをしています。大手組織設計事務所や大手ゼネコンはこの傾向が強いので注意が必要です。有利に進

表2 就活支援イベント

日程	イベント	開催主体
12/3～4	【大学院生限定】キャリア教育プログラム	海建・建築
1/28～2/1	カイケンJOBスクール	海建
2/6～8	学内セミナー	理工学部
2/12～13	OBOGと学生との懇談会	海建・建築
3/1～9	学内説明会・面談会	海建・建築



写真1 カイケンJOBスクール開催風景



写真2 OBOGと学生との懇談会開催風景

表1 就職・進学状況（学部・大学院）

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		29年度	28年度
学生数（人）	122	27	149	28	4	32	181	158	153
就職希望者（人）	80	22	102	26	4	30	132	111	110
内定	80	22	102	26	4	30	132	111	110
未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内定率（%）	100	100	100	100	100	100	100	100	100
大学院進学（人）	33	4	37	1	0	1	38	41	35
本学	33	4	37	1	0	1	38	39	33
他大学	0	0	0	0	0	0	0	2	2
その他（人）	9	1	10	1	0	1	11	6	8
研究生	2	1	3	0	0	0	3	1	2
留学（希望者含む）	1	0	1	0	0	0	1	1	0
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	1	3
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職の意思のない者	6	0	6	1	0	1	7	3	3

めるためには、夏期などの早い時期からインターンシップに参加するなど計画性を持って活動する必要があります。

早期に採用活動をする企業は、1月以降の冬期インターンシップや現場見学会においてリクレーターによる面談が行われて学生の選別が進められます。実質的な面接と言えます。3月の企業説明会解禁を待たずに内々定を出す企業もあります。

それ以外の多くの企業は少しスケジュールが遅れますが、1月のインターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性(職種・企業規模等)を決めておく必要があります。各社のスケジュールが重複するためそれほど多くのインターンシップに参加できないからです。インターンシップは就活の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知る、企業は学生と巡り会う機会として双方のメリットがあるため、この1～2年で急速に増えてその重要度も増す傾向にあります。

学科では3回の就職ガイダンスを予定しているので必ず参加して下さい。最新の企業動向・就活スケジュール・学内ルールなどの重要な情報を伝えます。併せて学部や学科が主催する就職セミナーに積極的に参加し、企業と職種、自分の適性についての認識をしっかり持ちましょう。特に学科主導のイベントは、これまでの経験を踏

まえて海建学生の適性や嗜好を踏まえたもので、他には無いものです。是非有効活用して下さい。

夏期インターンシップは気になる業種の最低1つには参加しましょう。意識も大きく変わるはずですが。夏休みの過ごし方は重要で、SPI対策、専門試験対策、企業研究、履歴書の試作などやるべきことは盛りだくさんです。冒頭では採用の堅調さを述べましたが、採用に至るまでのハードルは決して低くはなっていません。企業は仮に目標採用数に満たなくとも能力の高い学生だけを採る傾向が強まっています。

今年度の学科の就職指導は福井先生・山本先生・菅原先生と海建教室事務の岡崎さんと倉井さんが担当します。海建教室事務室は13号館3階1321室です。業務時間は9～17時(平日のみ)が基本です。また、3月下旬に13号館1階に移転したキャリア支援センターでは企業情報・OBOGの活動履歴の閲覧ほか、履歴書作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んで、有効に活用して下さい。学科から発信する就職セミナー、インターンシップ、企業説明会、求人に関する情報はmoodleにアップされるのでこまめにチェックするようにしてください。

表3 主要就職企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	竹中工務店	3		設計事務所	深田サルベージ建設	1		海洋・コンサルタント	日立造船		1
	大林組	3			白石建設	1			三井造船		1
	清水建設	1			高砂熱学工業	1			オリエンタル コンサルタンツ		1
	大成建設	4			日揮プラント イノベーション		1		日本港湾 コンサルタント		1
	長谷工 コーポレーション	2			松田平田設計		2		日水コン		1
	五洋建設	6	1		大建設計		1		三井共同建設 コンサルタント		1
	戸田建設	1			JR 東日本設計		1		エコー		1
	前田建設工業	2			類設計事務所		1		日本エンジニアリング		1
	三井住友建設	1			伊藤喜三郎建築設計		1		八千代 エンジニアリング		1
	安藤ハザマ	1			東電設計	1			国際航業		1
	西松建設	1		クロスファクトリー	1		アジア航測		1		
	東急建設	1		桂設計	1		ゼニヤ海洋サービス	1			
	フジタ	8		ACA 設計	1		日本ミクニヤ	1			
	高松建設	1		大和ハウス工業	5		埼玉県		1		
	鉄建建設	2	1	三井ホーム	1		静岡県		1		
	東洋建設	6		トヨタホーム	1		千葉県	1			
	青木あすなろ建設	1		三菱地所ホーム	1		千葉市	1			
	東鉄工業	2	1	日本総合住生活	1		江戸川区	1			
	松井建設	1		イオンモール	1		厚木市	1			
	りんかい日産建設	2		タカラレーベン	1		横浜港埠頭	1			
新日本建設	1		山万		1	東京電力HD	1	1			
建研		1	セントラル総合開発	1		YKK AP		1			
大東建託	1		JKK 東京	1		オカムラ	1				
大京穴吹建設	3		東急コミュニティー	1							
							その他				



# 海と建築

vol.  
17

**ジ** ャッキアップリグは、移動式の海洋掘削装置の一種として開発され、掘削装置を搭載した甲板部分と昇降可能な脚により構成されており、移動時は脚を上げて浮上し、その状態で曳航される。作業時は脚を下げて甲板部を海面上に持ち上げて作業するが、脚数は3基か4基のものが多い。最大能力としての稼働水深は脚が届く水深200メートル程度まで可能とされている。

**小** 規模なジャッキアップリグは、港湾工事や海峡橋の橋脚工事などに使われている。大規模なものは概ね海底資源の試掘や石油の試掘くみ上げなどに使われることが多い。このリグの特徴は脚を自由に上下できるため、海底面が必ずしも平面でなく岩礁地帯でも脚の高さを調整することで甲板を水平に保つことができ、且つ海面との高さ調整も可能となっている。

**一** れまで海上に設置されたジャッキアップリグの働く姿は、概ねこのリグの開発目的に沿ったもので海底

資源探査や試掘及び海洋工事に利用されているごく当たり前のものであった。

**中** 國山東省中國青島市には、北京オリンピックのヨット競技のための海上となったマリーナがあり、都心に立地しているため、休日ともなると家族ずれで賑わう憩いの場所ともなっている。オリンピック終了後は一般市民のためのヨットやボートの係留保管がされており、大型クルーザーが数多くある。

**そ** んなマリーナが昨年、上海協力機構（SCO）青島サミットの会場となり、習近平国家主席の出席の基に各国の国家元首を招き開催された。そのメイン会場が埠頭の先端部に建てられたエアドーム式の巨大な展示場海上であり、この中に関係者約4000人が集まり晩餐会が開かれた。その際の厨房施設がなんとジャッキアップリグを使ってつくられていた。

**一** の厨房施設は2基のリグを直列に並べて構成され、**一** 外壁はパンチングメタルを使ったグラデーションがかかり、一見したところでは海洋構造物の無骨さは見られない。内部の厨房設備は全てステンレス仕上げでつくられ、清潔さと機能性を満足している。こんな使い方が増えると、もっと海洋構造物が身近なものになる！（特任教授 畔柳昭雄）



青島オリンピックマリーナ



リグ（外観はパンチングメタルをカラーリング）



リグの右側がSCOの会場となったドーム施設



## 教員異動

就任：星上幸良 先生（4月より准教授として新規採用）

就任：非常勤講師 森田敬介 先生

就任：非常勤講師 金子太亮 先生

退任：大塚文和 先生（4月より非常勤講師）

退任：岡本強一 先生（4月より非常勤講師）

退任：非常勤講師 佐藤浩平 先生

退任：非常勤講師 神野郁也 先生

退任：小川マリア・リッチー 氏

# 海建

## カイケンマガジン No.109

発行者／北嶋圭二 発行日／平成31年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部海洋建築工学科教室  
Tel：047-469-5420（事務室）  
Fax：047-467-9446

編集委員：居駒知樹、恵藤浩朗、野志保仁、菅原遼、相田康洋  
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>  
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.